『富士山ガイダンス 2016 』 資料

■【第 1 部】富士登山の楽しみ方

【資料 1】火山がつくった世界遺産に登る【小山 真人 氏】

【資料 2】富士登山における歴史文化の楽しみ方～吉田口を中心に～【篠原 武 氏】

■【第 2 部】安全登山のための取組

【資料３】富士登山者に知って欲しいこと、守って欲しいこと【環境省】

【資料４】平成 28 年の富士登山について【山梨県・静岡県】

【資料５】富士山における救助・救護の実態【静岡県警】

■参考資料

【参考資料】「富士山登山者に提供すべき情報」

■日　時：平成 28 年2月 4 日（木）　12：40 開場、13：00 開会

■場　所：新宿御苑レクチャールーム

■主　催：富士山における適正利用推進協議会

（事務局：環境省関東地方環境事務所箱根自然環境事務所）

資料１

富士登山の楽しみ方

火山がつくった世界遺産に登る

静岡大学防災総合センター教授・教育学部教授
小山　真人

■プロフィール
静岡大学防災総合センター教授、同大学教育学部教授。
専門は火山学、地震・火山防災など。主な著書として「富士山　大自然への道案内」(岩波新書)、「富士山大噴火が迫っている!」(技術評論社)。

《講演要旨》

１．火山としての富士山の生い立ち

２．登山道沿いや山頂でのみどころ

３．富士山の火山防災

４．万が一噴火に遭遇した登山者が注意すべきこと

火山がつくった世界遺産に登る
小山真人（静岡大学）

山梨県
第6章
第2章
第3章
第7章
第1章
第5章
第4章
富士山
小山真人
大自然への道案内
世界遺産登録決定
この本を手に
登ってみよう!

富士山で噴火に遭遇したら？

1．火口や噴火場所を周囲の状況を見て把握する
2．場所が分かったら、できるだけ火口から離れる
3．その際、火口の下流方向には近づかない
4．場合によっては、登山道から離れて待機したり、別の登山道を目指してもよい
5．風が強い場合には、小さな噴石や火山灰を避けるために、風下方向へ近づかないようにする
6．地形がわかる地図があれば、火口の場所、周囲の状況、逃げられる方向について地図から判断する

資料２

富士登山の楽しみ方

富士登山における歴史文化の楽しみ方～吉田口を中心に～

富士吉田市歴史民俗博物館　学芸員
(ふじさんミュージアム)
篠原　武

■プロフィール
神奈川県逗子市出身
平成 14 年 3 月　明治大学史学地理学科考古学専攻　卒業
4 月　富士吉田市就職
富士吉田市歴史民俗博物館に配属され現在に至る。

主に市内の文化財保護を担当する。また、考古学は縄文時代を専門とし、市内の遺跡り発掘調査を行う。富士信仰の調査も行い、世界遺産富士山の調査・保護業務などにも携わる。

《講演要旨》

富士山は、平安時代には多くの行者が登り、山中で修業を行いました。そして、江戸時代中期には、多くの庶民が富士山を信仰する集団「富士講」を組織するようになり、「江戸八百八町に八百八講」と称されるほど隆盛を極めました。また、富士講を迎える吉田口では、86 軒の宿坊が軒を連ね、夏になると多くの富士講を迎え、宿坊の主人である御師(おし)は富士講のために祈祷をしました。そして、冬になると、富士講がある約 9,000 ヶ村を巡り歩き、祈祷をし御札を配りました。

この 1,000 年以上も続く富士山信仰の歴史について、吉田口登山道を中心にご紹介します。

富士山ガイダンス 2016
「富士登山における歴史文化の楽しみ方 - 吉田口を中心に - 」

ふじさんミュージアム　篠原　武／平成 28 年 2 月 4 日

1　富士山の祭神「浅間大神」と浅間神社の起源

10 万年前から火山活動を続ける富士山は、平安時代にも幾度も噴火を繰り返した。当時の人々は、これらの噴火は、富士山の神である浅間大神の怒りの現われとし、浅間大神に鎮謝するための神社を建立した。それが、今の富士山本宮浅間大社（静岡県富士宮市）である。

しかし、その甲斐なく、貞観 6 年（864）に甲斐国で大噴火がおきた。世に言う貞観の大噴火である。これを機に、今まで浅間神社がなかった甲斐国にも浅間神社を祀ることとなった。これが今の河口浅間神社と一宮浅間神社とされる。

●**天応元年（781）**「七月癸(みずのと)亥。駿河国言(もう)す。富士山の下に灰を雨(ふ)らす。灰の及ぶ所は木葉彫萎(ちょうい)すと。」（『続日本紀』）

●**延暦 19 年（800）**「六月癸酉。駿河国言す。去りぬる三月十四日より四月十八日まで、富士山の嶺(いただき)自(おのずか)ら焼く。昼は則ち烟気暗瞑にして、夜は則ち火光り天を照らす。其の声雷の若(ごと)く、灰下(ふ)ること雨の如し。山下の川水皆紅色なりと。」（『日本紀略』）

●**貞観 6 年（864）『三代実録』（『富士吉田市史』史料編 2 巻）**

〔訓読〕

五月廿五日庚戌。駿河国言す。富士郡の正三位浅間大神の大山に火あり。其の勢甚だ熾(さかり)にして、山を焼くこと方一二許里(いちにりばかり)、光炎の高さ廿許丈、大いに声有り雷の如し。地震(ないふ)ること三度、十余日を歴れども、火猶(な)お滅(き)えず、岩を焦し嶺を崩し、沙石雨ふるが如く、煙雲鬱蒸(うつじょう)して、人の近づくを得ず。大山の西北に本栖(もとす)水海有り。焼く所の岩石、流れて海中を埋む。遠さ三十許里、広さ三四許里、高さ二三許丈、火焔遂に甲斐国の堺に属(つ)くと。

〔訓読〕

七月十七日辛丑。甲斐国言す。駿河国富士の大山に、忽ちに暴火有り。崗巒(こうらん)を焼き砕き、草木を焦殺し、土を鑠(とか)し石を流し、八代郡本栖并びに剗(せ)の両(ふたつ)の水海を埋む。水熱きこと湯の如く、魚鼈(ぎょべつ)皆死し、百姓の居宅、海と共に埋もれ、或いは宅有りて人無きもの、其の数記し難し。両の海以東に、亦水海有り。名づけて河口海と曰(い)う。火焔赴きて河口海に向う。本栖・剗等の海、未だ焼け埋もれざるの前、地大いに震動して雷電暴雨あり、雲霧晦冥にして、山野を弁(わか)ち難く、然る後に此の災異有りと。

●貞観７年（865）『三代実録』（『富士吉田市史』史料編２巻）

〔訓読〕

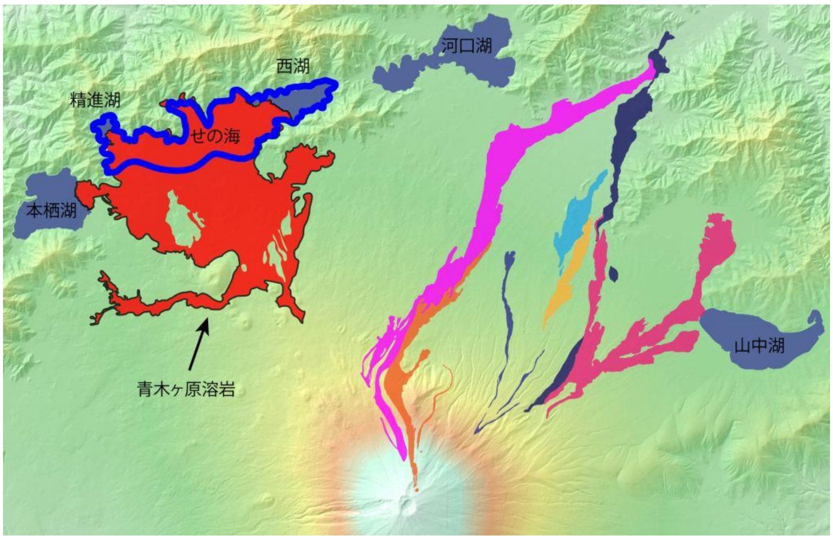
八月五日己未。甲斐国司に下知して云う。駿河国富士山に火ありて、彼の国言上す。之れを蓍亀に決するに云わく、浅間明神の禰宜・祝等、斎敬を勤めざるの致す所なりと。仍りて鎮謝すべきの状（彼の）国に告げ知らせ訖りぬ。宜しく亦奉幣解謝すべしと。

〔訓読〕

十二月九日丙辰。勅して、甲斐国八代郡に浅間明神の祠を立てて、官社に列し、即ち祝・禰宜を置き、時に随いて祭を致さしむ。是より先彼の国司言す。往年八代郡に暴風大雨、雷電地震あり、雲霧杳冥にして、山野を弁ち難し。駿河国富士の大山の西の峰に、急に熾火有りて、巌谷を焼き砕く。今年八代郡の擬大領無位伴直真貞託宣して云わく、我は浅間明神なり。此の国に斎き祭らるを得むと欲し、頃年国吏の為に凶咎を成し、百姓の病死を為す。然るに未だ曽つて覚悟せず。仍りて此の怪を成す。須く早く神社を定め、兼ねて祝・禰宜を任じ、宜しく潔斎して奉祭すべしと。真貞の身、或いは伸びて八尺可り、或いは屈みて二尺可り、体を変え長短にして、件等の詞を吐く。国司之を卜筮に求むるに、告ぐる所託宣に同じ。是に於て明神の願に依り、真貞を以て祝と為し、同郡の人伴秋吉を禰宜と為し、郡家以南に神宮を作り建て、且つ鎮謝せしむ。然りと雖も異火の変、今に未だ止まず。使者を遣して検察せしむるに、剗海を埋むること千許町、仰ぎて之を見るに、正中の最頂に社宮を飾り造り、垣は四隅に有り、丹青の石を以て立つ。其の四面の石は高さ一丈八尺許り、広さ三尺、厚さ一尺余り、立石の門（間カ）は、相去ること一尺、中に一重の高閣有り、石を以て構え営み、彩色の美麗、勝げて言うべからず。望み請うらくは、斎き祭り兼ねて官社に預からむと。之を従す。

〔訓読〕

十二月廿日丁卯。甲斐国をして山梨郡に於て浅間明神を致祭せしむること、一ら八代郡に同じ。



歴史時代に流れた主な溶岩

※「あさま」と「せんげん」

浅間神社のことは、「あさまじんじゃ」と呼ぶところもあれば、「せんげんじんじゃ」と呼ぶところもあります。これはどちらも正しいのですが、「あさま」の方が古い呼び名とされます。昔は、火をふく山のことをアサマやアソと呼んだともいい、長野県の浅間山や熊本県の阿蘇山はその一例とされます。富士山もアソやアサマと呼ばれていたのかもしれません。アサマを漢字に当てた時、「浅間」になり、それを音読みするとセンゲンになります。こうして２種類の呼び方ができたと考えられます。

２　富士山の神仏の変遷

（１）古代

富士山は、奈良時代には、神の住まう山として『万葉集』や『常陸国風土記』に記され、平安時代には浅間大神が祀られるようになる。なお、9 世紀後半に記されたという『富士山記』には、「又貞観十七年十一月五日に、吏民旧きに仍りて祭を致す。日午に加へて天甚だ美く晴る。仰ぎて山の峯を観るに、白衣の美女二人有り、山の嶺の上に双び舞ふ。嶺を去ること一尺余、土人共に見きと、古老伝へて云ふ。」とあり、天女が富士山頂を舞う様子が記されている。

●『常陸国風土記』（『富士吉田市史』史料編２巻）

〔訓読〕

古老のいへらく、昔、神祖の尊、諸神たちのみ処に巡り行でまして、駿河の国福慈の岳に到りまし、卒に日暮に遇ひて、遇宿を請欲ひたまひき。此の時、福慈の神答へけらく、「新粟の初嘗して、家内諱忌せり。今日の間は、冀はくは許し堪へじ」とまをしき。是に、神祖の尊、恨み泣きて詈告りたまひけらく、「即ち汝が親ぞ。何ぞ宿さまく欲りせぬ。汝が居める山は、生涯の極み、冬も夏も雪ふり霜おきて、冷寒重襲り、人民登らず、飲食な奠りそ」とのりたまひき。更に、筑波の岳に登りまして、亦客止を請ひたまひき。此の時、筑波の神答へけらく、「今夜は新粟嘗すれども、敢へて尊旨に奉らずはあらじ」とまをしき。爰に、飲食を設けて、敬び拝み祗み承りき。是に、神祖の尊、歓然びて歌ひたまひしく、

愛しきかも我が胤　巍きかも神宮
天地と並斉しく　日月と共同に
人民集ひ賀ぎ　飲食富豊く
代々に絶ゆることなく　日に日に弥栄え
千秋万歳に　遊楽窮じ

とのりたまひき。是をもちて、福慈の岳は、常に雪ふりて登臨ることを得ず。其の筑波の岳は、往集ひて歌ひ舞ひ飲み喫ふこと、今に至るまで絶えざるなり。

●万葉集（『富士吉田市史』史料編２巻）

〔訓読〕

山部宿禰赤人、不尽山を望くる歌一首並に短歌

天地の　分れし時ゆ　神さびて　高く貴き　駿河なる　布士の高嶺を　天の原　振り放け見れば　渡る日の　影も隠らひ　照る月の　光も見えず　白雲も　い行きはばかり　時じくそ　雪は降りける　語り継ぎ　言ひ継ぎ行かむ　不尽の高嶺は（三一七）

反　歌

田児の浦ゆうち出でて見れば真白にそ不尽の高嶺に雪は降りける（三一八）

不尽山を詠ふ歌一首並に短歌

なまよみの　甲斐の国　うち寄する　駿河の国と　こちごちの　国のみ中ゆ　出で立てる　不尽の高嶺は　天雲も　い行きはばかり　飛ぶ鳥も　飛びも上らず　燃ゆる火を　雪もち消ち　降る雪を　火もち消ちつつ　言ひもえず　名づけも知らず　霊しくも　います神かも　石花の海と　名づけてあるも　その山の　つつめる海そ　不尽河と　人の渡るも　その山の　水の激ちそ　日の本の　大和の国の　鎮とも　座す神かも　宝とも　生れる山かも　駿河なる　不尽の高嶺は　見れど飽かぬかも（三一九）

（２）中世

富士山には、神だけでなく仏も住まうと考えられるようになる。その仏は、大日如来とされ、13 世紀以降には、多くの大日如来像が造立され、山中に祀られるようになった。また、当時、神は仏が仮に姿を変えて日本の地に現れたものとする本地垂迹説が広まっていた。そのため、富士山の神も大日如来の仮姿とされ、その神名は、「浅間大菩薩」とされた。

他方で、平安時代に成立した『竹取物語』を取り入れて富士山の由来を説く「富士山縁起」が鎌倉時代に成立すると、富士山の祭神は「赫夜姫」とされるようになり、翁の「鷹飼」と嫗の「犬飼」とともに篤い信仰を集めるようになった。

●『竹取物語』（『富士吉田市史』史料編 2 巻）

その後、翁・女、血の涙を流して惑へどかひなし。あの書(き)をきし文を讀み聞かせけれど、「なにせむにか命もおしからむ。たが爲にか。何事も用もなし」とて、藥も食はず、やがて起きもあがらで、病み臥せり。中將、人々引き具して歸りまいりて、かぐや姫を、え戰ひ止めず成(り)ぬる事、こまぐ〳〵と奏す。藥の壺に御文そへ、まいらす。ひろげて御覽じて、いといたくあはれがらせ給(ひ)て、物もきこしめさず。御遊びなどもなかりけり。大臣上達を召して、「いづれの山か天に近き」と問はせ給ふに、ある人奏す、「駿河の國にあるなる山なん、この都も近く、天も近く侍る」と奏す。これを聞かせ給ひて、

逢ことも涙にうかぶ我身には死なぬくすりも何にかはせむ

かの奉る不死の藥に、又、壺具して、御使に賜はす。勅使には、つきのいはかさといふ人を召して、駿河の國にあなる山の頂にもてつくべきよし仰(せ)給(ふ)。嶺にてすべきやう敎へさせ給(ふ)。御文、不死の藥(の)壺ならべて、火をつけて燃やすべきよし仰せ給(ふ)。そのよしうけたまはりて、つはものどもあまた具して山へ登りけるよりなん、その山をふじの山とは名づけゝる。その煙いまだ雲のなかへたち上るとぞ言ひ傳へたる。

（『竹取物語』十、ふじの山）

●富士浅間大菩薩の事（貴志正造訳 1967『神道集』平凡社）

富士浅間大菩薩の事

駿河の国の鎮守富士浅間大菩薩の由来である。雄略天皇の時、駿河の国富士郡に、ある老人夫婦が住んでいた。子どもが一人もいないことを気にして、明け暮れ嘆いていた。

「この世は何とか過ごすとしても、死後、極楽往生できるように仏祭りをしてくれる御魂子(注一)がほしいものです」

すると、後ろの庭の竹林から、年ごろ五つ六つくらいの一人の幼女が現われてきた。みごとにととのった顔だちは、ちょっと比べるものがない。急にあたり近所もパッと明るく照り輝いた。その老爺の名(注二)は管竹の翁、老婆は加竹の嫗といった。

この姫君を手に入れたので老夫婦は大喜び。赫野姫と名をつけて大切に養育してゆくうちに、かくや姫の容姿があまり美しいので、時の国司が寵愛して、ついに夫婦約束をする深い仲となった。

かくて年月がたち、老夫婦ともになくなった。ある時、かくや姫は国司に語った。

「わたしは富士山の仙女です。この老夫婦二人とは前世で宿縁があったので、養育のため下界に下りて姫となりました。そのお返しもすみ、あなたとわたしの縁も終わりましたので、今から仙宮へ帰ろうと思います」

国司はこれを聞いて、姫と別れるのが悲しく、彼女を慕いつづけるのであった。

しばらくして姫がいった。

「わたしは富士山の頂上にいます。恋しくなった時はいつでも逢いに来て下さい。また時々この箱の蓋をあけてご覧下さい」

といって、反魂香（焚けば死者が姿を現わすと伝える香）を入れた箱を与えると、かき消すように姿が見えなくなった。男は、床にとり残されてひとり悲しんでいた。

その後、女が恋しくてならない時、この箱の蓋を開けて見た。すると煙の中にほのかに彼女の姿が見える。男はいよいよ悲しくなって、何度か気が遠くなりそうになったが、ついに我慢ができず富士山の頂上に上った。

あたりを見ると大きな池がある。中に島があって、宮殿楼閣とそっくりな石が多く、池の中から煙が立ちのぼっている。その煙の中から彼女の姿がほのかに見えてきたので、男は悲しみのあまり、この箱を懐に入れると、身を躍らせて自殺した。その時あたりにたった煙は、長い年月がすぎて、今日まで絶えないでずっとたちつづけているそうである。

この仙宮について、不死の煙といったのを、そのまま山の名、郡の名につけて、今も富士の煙というのである。

その後、かくや姫と国司は神として現われて、富士浅間大菩薩とよばれた。男体・女体がある。詳細は『日本記』(注三)に載っている。『富士縁起』(注四)のも『日本記』の大意をとって書いたものである。だから古歌にも、

山も富士煙も富士の煙にて煙るものとは誰もしらじな

（山の名も不尽の山、煙も不死の煙というので、いつまでも尽きず、消えずに煙がたちつづけているのだとは誰も知るまい）

とある。

また富士の根の雪は、六月十五日にだけ消えて、その日の戌の時（午後八時）に必ずまた降るという。だから柿本人麿(注五)の歌にも、

富士の根にふりみつ雪はみな月のもちに消えてはその夜降りけり

（富士山の頂上に一ぱい降りつもった雪は一年中で最も暑い六月十五日に消えると、その夜すぐ降るということだ）

とある。

その後、長い年月がたった。富士浅間大菩薩は、衆生に利益を与えるために、山の頂上から里へ下りて、麓の村に立てられた。恋の路に迷っている人は、大菩薩にすがれば、きっと願いがかなえられる。

ある女が男に捨てられた。三島郡内でのことだから、小浜に参詣してお祈りした。小浜とは富士浅間大菩薩のことである。

人しれぬ思ひはつねに富士の根のたえぬ煙はわが身なりけり

（富士の山はいつも煙を燃やしている。わたしも人知れぬ思い〔火〕を常に燃やしているから、富士の山のたえぬ煙はわが身そっくりである）

という歌をよんだところ、その日、たちどころに男が帰ってきて逢えたという。（巻八の四十七）

●人穴と浅間大菩薩（五味文彦・本郷和人編 2009『現代語訳　吾妻鏡』7）

三日、己亥。晴れ。将軍家(源頼家)が駿河国富士[2]の狩倉に出かけられた。その山麓にもまた人穴[3]と称する大きな谷があった。(頼家は)その場所をよくよく検分させるため、新田四郎忠常ら主従六人を入れられた。忠常は重宝の御剣を賜り人穴に入った。今日は日が暮れても帰らなかった。

四日、庚子。曇り。巳の刻に新田四郎忠常が人穴から出て帰ってきた。往復に一日一夜かかったのである。「この穴は狭くて引き返すことができず、心ならずも先へ進みました。また暗くて精神的に苦痛で、主従はそれぞれ松明を持ちました。途中ずっと水の流れが足を濡らし、蝙蝠が顔の前を遮って飛び、(その数は)幾千万とも知れませんでした。その行き着いたところは大きな河でした。さかまく波が勢いよく流れ、渡ることもできず、ただ困惑するだけでした。すると火の光に当たり、河の向こうに怪しいものが見えたかと思うと、郎従四人がたちまち死亡しました。そこで忠常はその霊の言うことに従い、恩賜の御剣をその河に投げ入れ、命を全うして帰ってきました。」という。古老が言った。「これは浅間[4]大菩薩の御在所で、昔より決してその場所を見ることはできませんでした。今度のことはまことに恐るべきことです」。

（３）近世

浅間大神・赫夜姫・浅間大菩薩・大日如来と様々な祭神が併存する中で、近世初頭になると阿弥陀如来信仰もみられるようになる。浄土信仰の下で、この世ではなくあの世とされた富士山頂には阿弥陀三尊が来迎するという信仰が生まれた。そして、その来迎の姿を描いた富士山牛玉（ふじさんごおう）という絵札が、富士登山者へ配られるだけでなく、富士登山者が着る行衣の背にも刷られるようになる。また、富士山の御来光は、阿弥陀三尊の御来迎と同一視されるようになり、御来光を非常に尊ぶとともに、御来光の際に自らの影が雲に映り、その周囲に虹がかかるブロッケン現象を、御来迎の現われともした。

また、それまで祭神とされた赫夜姫に代わり木花開耶姫命の名が定着するようになる。これは、江戸時代になってから、林羅山など学者たちが、古事記や日本書紀に記されている木花開耶姫命こそが浅間神社の祭神であると主張した事に始まるとされ、江戸時代を通じて徐々に定着していき、江戸時代末にはほぼ定着したとされる。

富士山牛玉

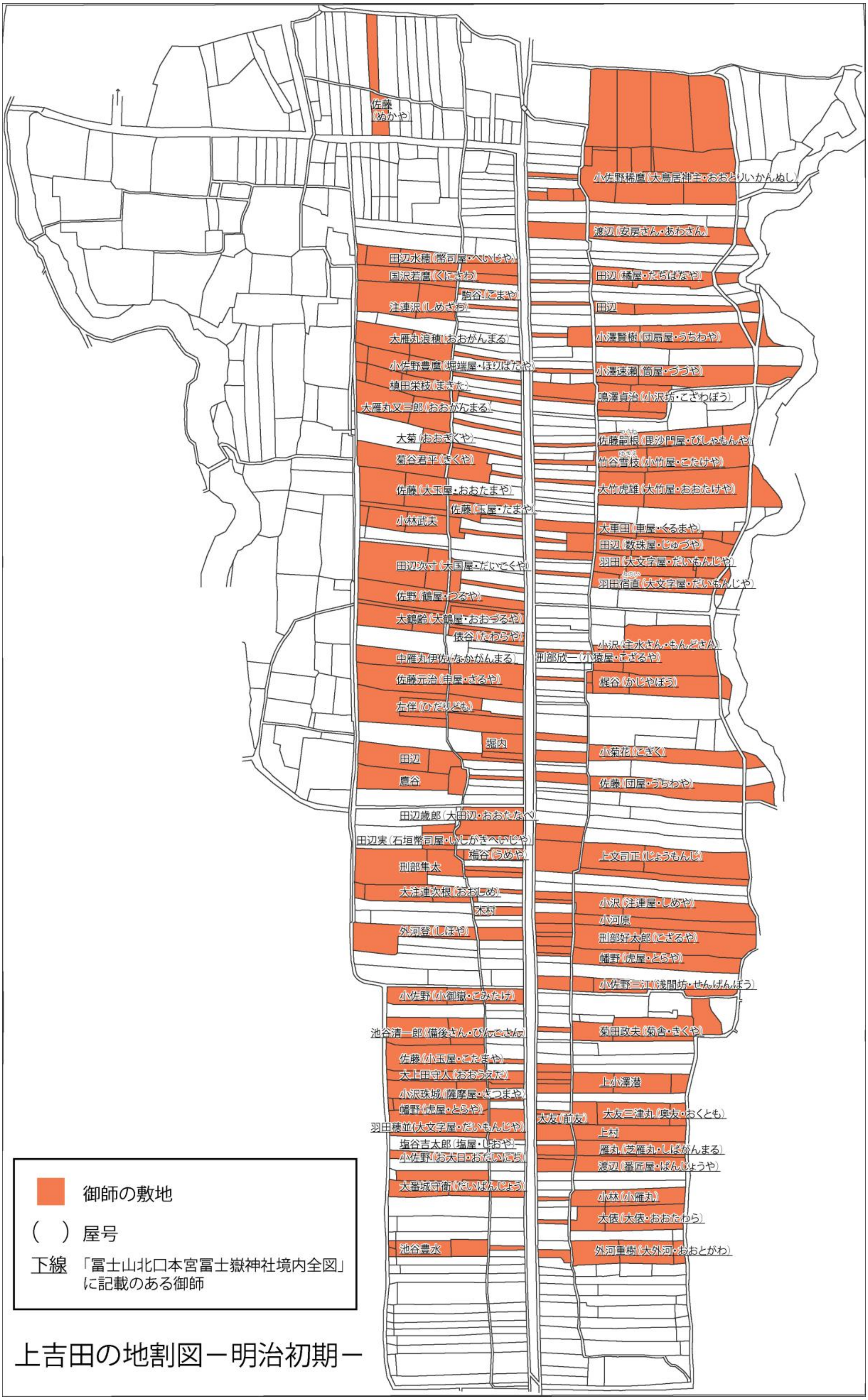
行衣と富士山牛玉

３　御師町上吉田と御師の家の歴史

（１）上吉田の歴史

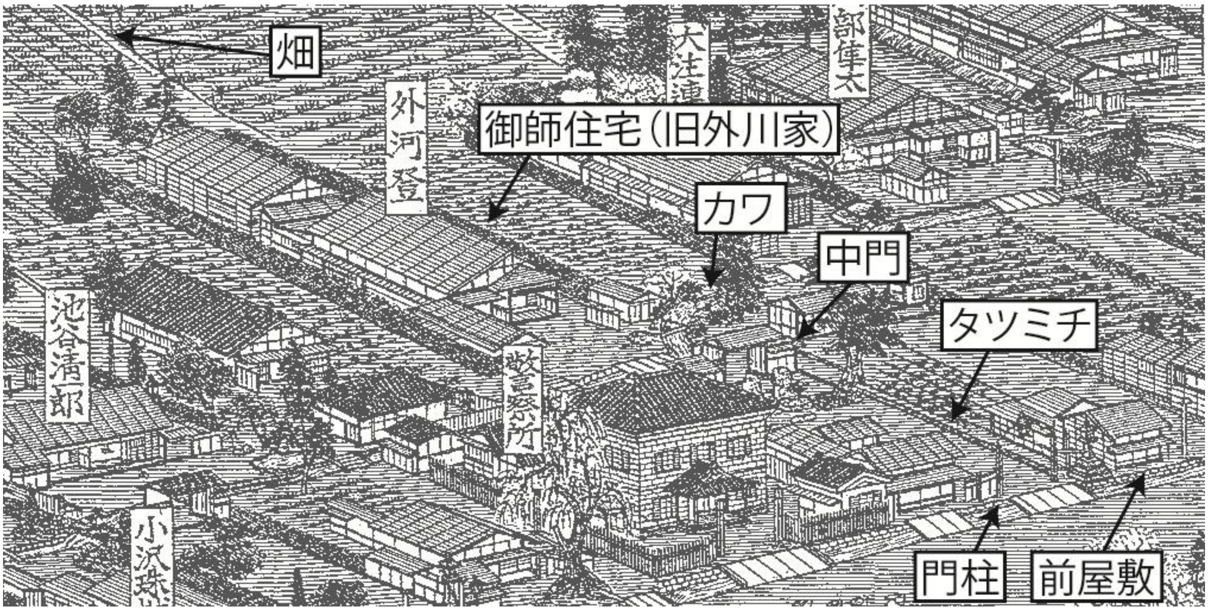
吉田の初見は、『勝山記』という古記録にあり、文明 12 年（1480）の条に「三月廿日、冨士山吉田取井立。」である。これは、吉田口登山道の起点である北口本宮冨士浅間神社の大鳥居が建立されたとの記録である。そして、明応 9 年（1500）の条に「此年六月冨士へ道者参ル事限無」とあり、多くの人々が富士山へ登ったことが分かる。

このように大勢の富士登山者を迎え宿泊させた吉田の町は、今の大字「古吉田」にあったとされる。元亀 3 年（1572）には、上吉田へ町を移したが、当時の屋敷割帳には 69 筆が書上げられている。これは現在の上町（現、上宿）と中町（現、中宿）にあたり、下町（下宿）は慶長 11 年（1606）に成立した。なお、筆数は 38 筆である。



佐藤（ぬかや）
小佐野稀麿（大鳥居神主・おおとりいかんぬし）
渡辺（安房さん・あわさん）
田辺水穂（幣司屋・へいじや）
国沢若麿（くにさわ）
田辺（橘屋・たちばなや）
駒谷（こまや）
注連沢（しめざわ）
田辺
大雁丸浪穂（おおがんまる）
小澤賢樹（団扇屋・うちわや）
小佐野豊麿（堀端屋・ほりばたや）
小澤速瀬（筒屋・づづや）
槙田栄枝（まきた）
鳴澤貞治（小沢坊・こざわぼう）
大雁丸又三郎（おおがんまる）
大菊（おおぎくや）
佐藤嗣根（毘沙門屋・びしゃもんや）
菊谷君平（きくや）
竹谷雪枝（小竹屋・こたけや）
佐藤（大玉屋・おおたまや）
大竹虎雄（大竹屋・おおたけや）
佐藤（玉屋・たまや）
小林武夫
大車田（車屋・くるまや）
田辺（数珠屋・じゅづや）
田辺次寸（大国屋・だいこくや）
羽田（大文字屋・だいもんじや）
羽田宿直（大文字屋・だいもんじや）
佐野（鶴屋・つるや）
大鶴齢（大鶴屋・おおづるや）
俵谷（たわらや）
小沢（主水さん・もんどさん）
中雁丸伊佐（なかがんまる）
刑部欣一（小猿屋・こざるや）
佐藤元治（申屋・さるや）
梶谷（かじやぼう）
左伴（ひだりども）
堀内
小菊花（こぎく）
田辺
鷹谷
佐藤（団屋・うちわや）
田辺歳郎（大田辺・おおたなべ）
田辺実（石垣幣司屋・いしがきへいじや）
梅谷（うめや）
上文司正（じょうもんじ）
刑部隼太
大注連次根（おおしめ）
小沢（注連屋・しめや）
木村
小河原
外河登（しほや）
刑部好太郎（こざるや）
幡野（虎屋・とらや）
小佐野三江（浅間坊・せんげんぼう）
小佐野（小御嶽・こみたけ）
池谷清一郎（備後さん・びんごさん）
菊田政夫（菊舎・きくや）
佐藤（小玉屋・こたまや）
大上田守人（おおうえだ）
上小澤潜
小沢珠城（薩摩屋・さつまや）
幡野（虎屋・とらや）
大友（前友）
大友三津丸（奥友・おくとも）
羽田穂並（大文字屋・だいもんじや）
上村
塩谷吉太郎（塩屋・しおや）
雁丸（芝雁丸・しばがんまる）
小佐野（お大日・おだいにち）
渡辺（番匠屋・ばんじょうや）
大番城守衛（だいばんじょう）
小林（小雁丸）
大俵（大俵・おおたわら）
池谷豊水
外河重樹（大外河・おおとがわ）
御師の敷地
（　）屋号
下線　「冨士山北口本宮冨士嶽神社境内全図」に記載のある御師
上吉田の地割図ー明治初期ー

上吉田の地割図



富士山北口本宮冨士嶽神社境内全図　明治 25 年（1892）より

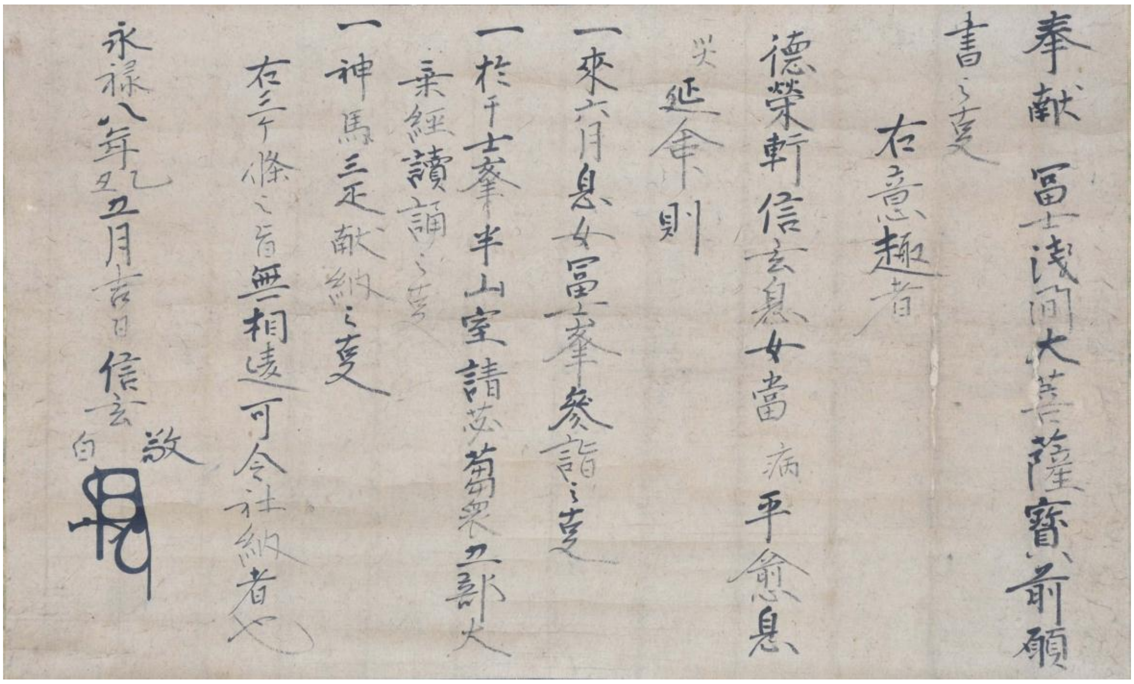
（２）御師（おし）の歴史

御師は、神職であり、その名称は御祈禱師（ごきとうし）の略称とされる。伊勢では、御師（おんし）と称する。御師は、約 80～90 家が江戸時代を通じて活動しているが、室町時代に遡る文書も多数所持しており、御師菊谷（きくや）が所持する武田信虎より与えられた文書はその最古のものの１つである。また、武田氏や小山田氏が浅間大菩薩へ納めた祈願文も多数残されており、御師「小沢采女」家が所持していた武田信玄の祈願文はその１つである。

江戸時代前期の記録をみると、御師は袈裟をかけ数珠を持ち、経典を読誦する姿が記されていることから、この頃は後に見るような神道のみに基づく活動ではなく、仏教に基づく活動も盛んにしていたと考えられる。

江戸時代中期になると、神職の免許を与える吉田家や白川家から神道裁許状を授かるなど、神道に基づく活動を盛んにしていくことになる。

●武田信玄の文書（田辺采女家旧蔵）



奉献　富士浅間大菩薩宝前願

書之事

　右意趣者

徳栄軒信玄息女当病平癒息

災延命、則

一、来六月息女富士峯参詣之事

一、於于士峯半山室請苾蒭衆、五部大

乗経読誦之事

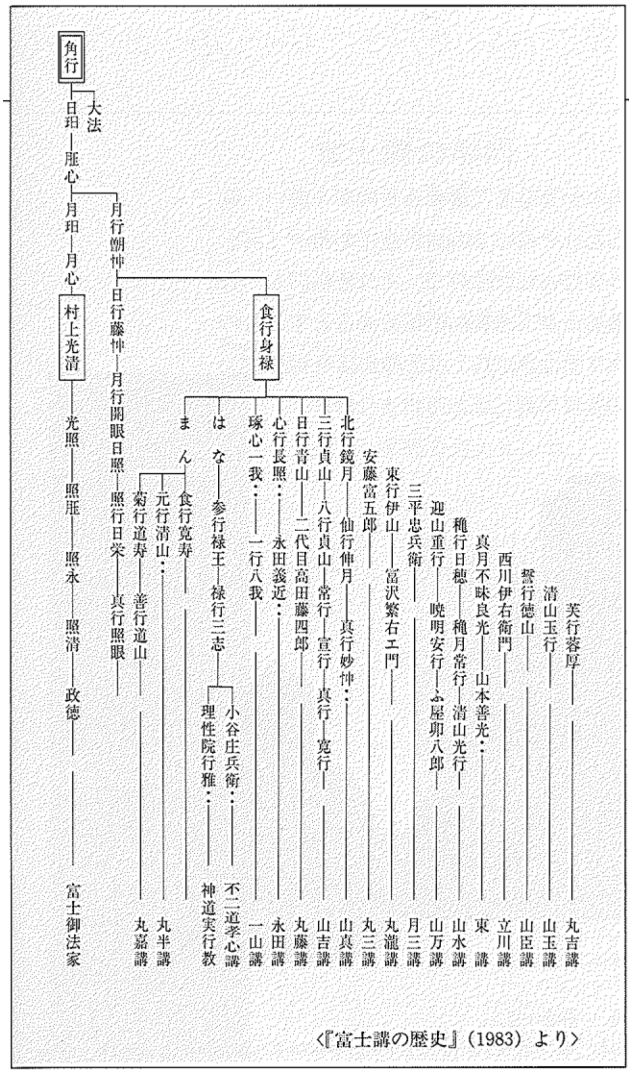
一、神馬三疋献納之事

右三ヶ条之旨、無相違可令社納者也、

永禄八年乙丑五月吉日　信玄（花押）敬白

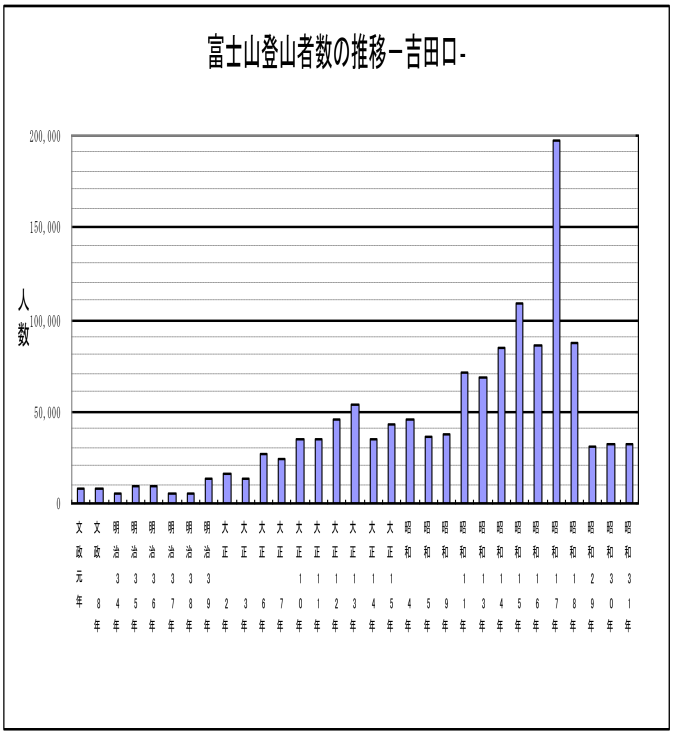
４　富士登山者と富士講について

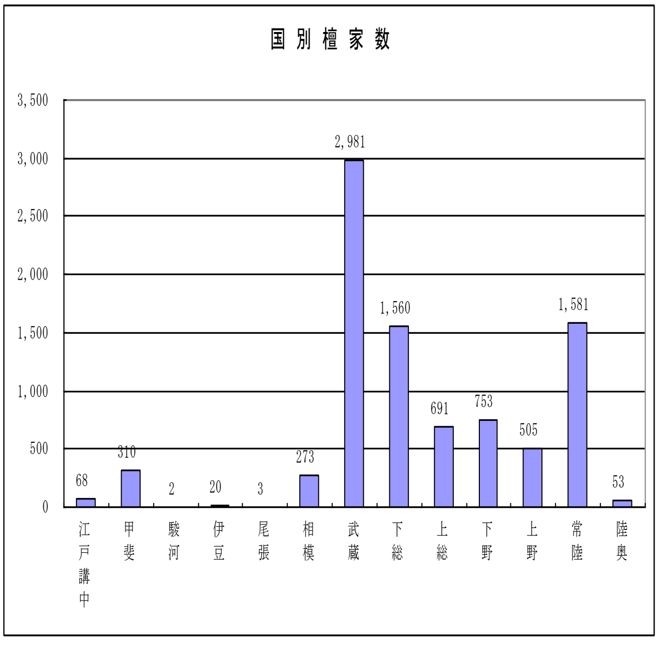
江戸時代前期までは、100 日間の精進潔斎をしなければならないなど、富士山に登ることは庶民にはやや縁遠いものであった。そして、江戸時代中期になると後に富士講 6 代目にして富士講中興の祖と讃えられた食行身禄が、庶民による富士登山の時代を切り開く画期的な教えを説き始める。それは、心を正せば、精進潔斎は必要ではないとし、また、夜の 12 時に寝て朝の 4 時に起きる生活の中で、自らの職業を全うすることこそが大切なのであり、こうした正しい行いを富士山は見ていてくれているというものである。また、男女平等を説くだけでなく女人禁制の撤廃にまで踏み込んだともされる。こうした非常に近代的な教えが、江戸や関東一円の庶民の共感を呼び、江戸八百八町に八百八講といわれるほどに富士講が隆盛を極めていくことになる。

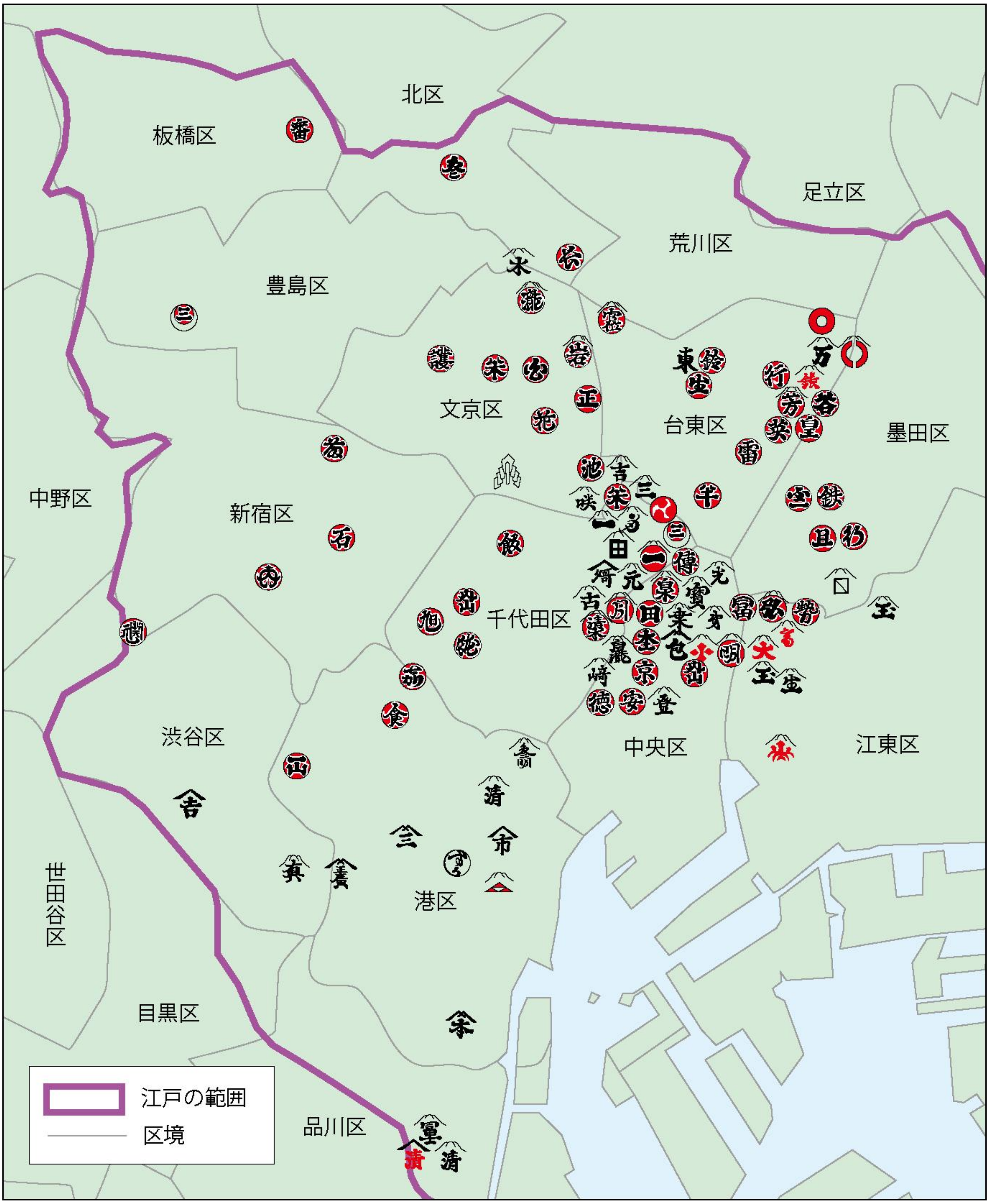


〈『富士講の歴史』(1983)より〉

富士行者の系譜



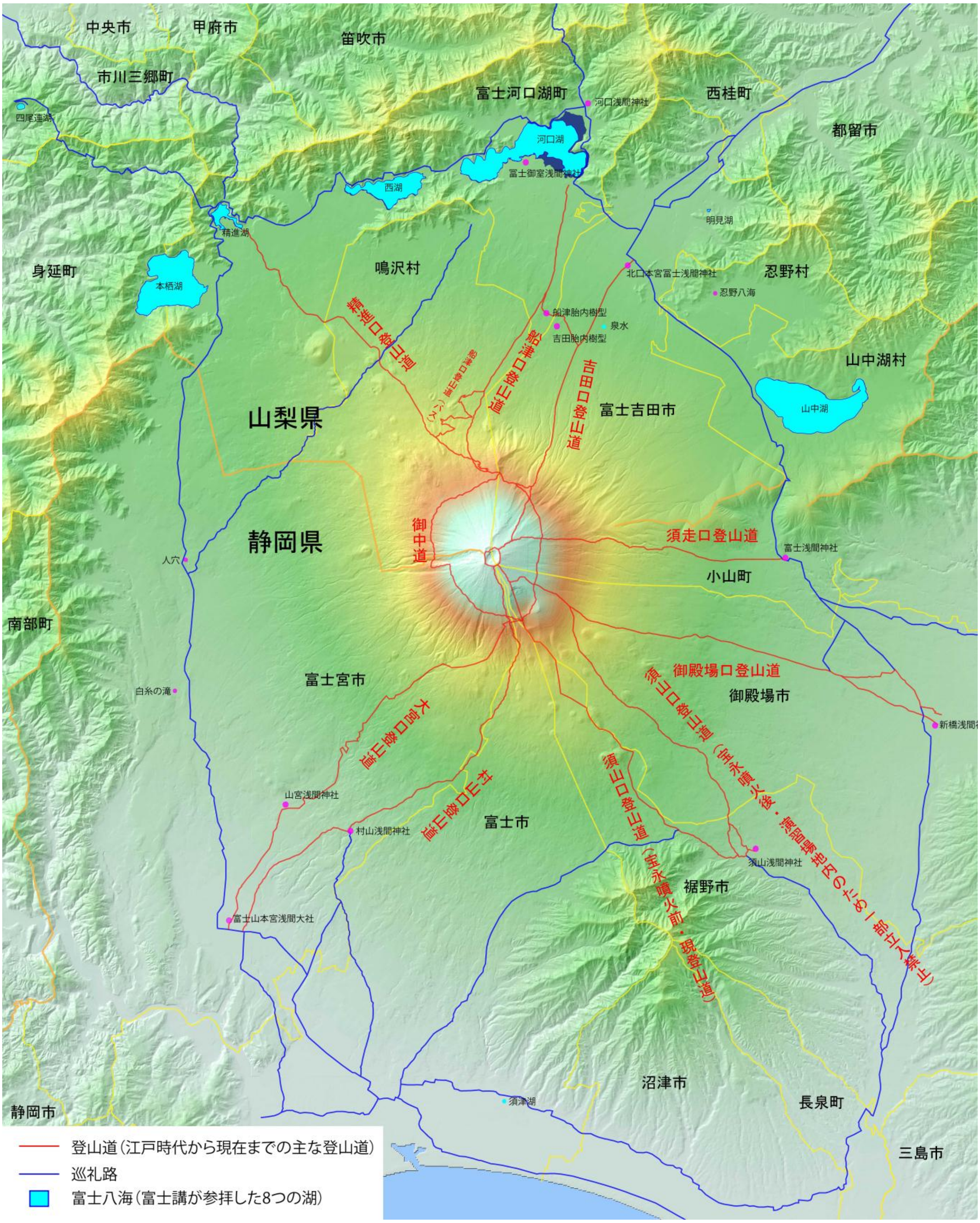




富士講マップ　※ふじさんミュージアム 2015『富士講のヒミツ』より

富士講は、1,700 年代後半から 1,800 年代にかけて江戸を中心にして爆発的に広がります。このマップは、江戸時代の主な富士講の講印をまとめた「富士講惣印図」（1842 年／田端富士三峰講所蔵）を元に作成した当時の富士講の分布です。

５　富士山の登山道

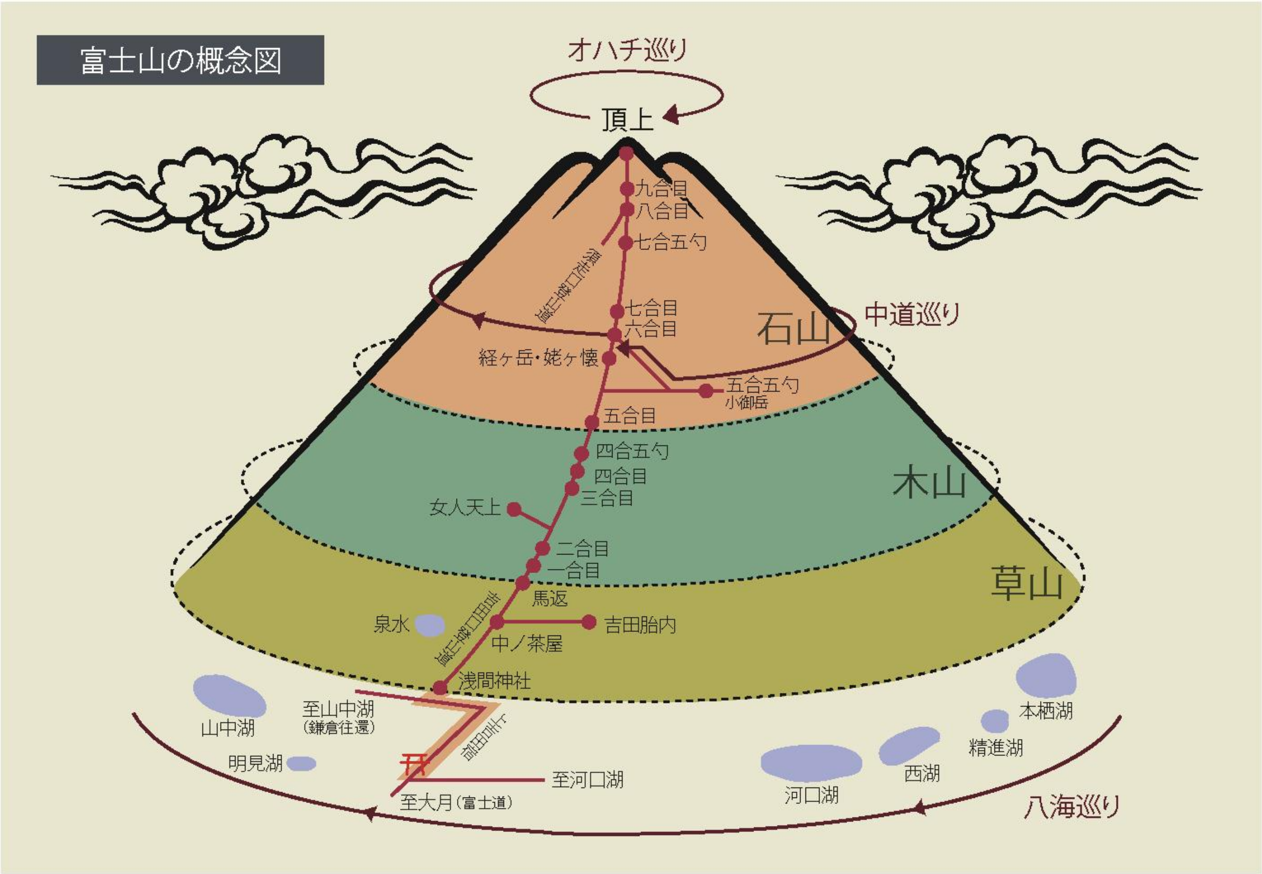


富士山全体マップ

※国土地理院発行の『数値地図 50000（地図画像）』及び『数値地図 50m メッシュ』を『カシミール 3D』により加工。

６吉田口登山道

※登山道中の説明は、篠原武 2013「吉田口登山道のいまむかし－明治から大正、絵葉書で見る近代富士登山の変貌－」『レンズが撮らえた幕末明治の富士山』山川出版社



富士山の概念図　※富士吉田市歴史民俗博物館 2013『富嶽人物百景』より

上吉田（かみよしだ）と金鳥居（かなどりい）

元亀３年（1572）に成立した町で、江戸時代には 80 軒ほどの御師（おし）の家があった。御師とは、富士山に登山する人と富士山の神仏との仲立ちをするものであり、各家には富士山の祭神を祀る神殿が必ずあった。なお、現在でも４軒の家が富士講を迎えており、御師住宅もまだ 20 軒以上が大切に守り伝えられている。登山者は、御師の家に宿泊し、翌朝の 6～7 時ころに出立した。

この上吉田の入口に立ち、町の象徴ともなっているのが、金鳥居である。その建立を発願したのは、富士講中興の祖である食行身禄（じきぎょうみろく）の直弟子である田辺（たなべ）

十郎右衛門（じゅうろううえもん）の息子で、父と共に富士講の興隆を支えた中雁丸豊宗（なかがんまるとよむね）であり、食行身禄の50回忌である天明2年(1782)のことであった。建立が成就したのは、天明8年(1788)で、その後も3度の再建を経てきたが、今も富士山の登山者を変わらぬ姿で迎えている。

金鳥居の下には、登山役所（導者改役所）があり、登山者はここで「山役銭（やまやくせん）」として122文を支払った。この山役銭とは、今の入山料にあたるもので、支払いを済ました登山者は、通行証である「登山切手」を受取った。なお、ここで山役銭を支払うのは、宿泊する御師の家が決まっていない人たちで、富士講などお世話になる御師が決まっている人たちは、御師に直接支払いをした。山役銭の内訳は次のとおりである。

※『隔掻録』(文政8年（1825)）より

①清め祓の料	32文	御師の分
②二合目役行者賽銭	12文	別当（円楽寺）に6文、御師に6文
③金剛杖の料	8文	
④五合目	32文	休息料に16文、御師に16文
⑤九合目鳥居御橋	14文	吉田の分
⑥頂上薬師カ嶽	20文	大宮司（浅間大社）に14文 御師に6文

合計　118文　→　これに導者改め所の維持費4文を加え、122文
御師の取り分は、吉田の分も含めると78文

古は244文で、武田氏へ上納していたが、元亀年中に半分の122文になった。その後、元禄の頃に御師へその権利が渡されたという。

北口本宮富士浅間神社（きたぐちほんぐうふじせんげんじんじゃ）

富士山の祭神を祀る浅間神社は、富士山にある各登山道の起点とされるが、本社の場合においては、木造最大級とされる高さ約18mの大鳥居が、江戸時代からその起点とされ、山頂までは三百五十七町七間半（約10里）あるとされ、時間にすると約10～11時間ほどかかる。

他の社殿に先んじて当地へ建立されたのがこの大鳥居とされ、ここから富士山を遥拝したことから富士山の鳥居ともいわれる。大鳥居は、約60年に

1度、建替えか大改修が行われてきたが、近年においても、昭和29年（1954）の建替え以来となる大改修が行われ、平成26年（2014）6月に竣工式が行われた。

中ノ茶屋

宝暦4年（1754）には、その名が記録に出てくる茶屋であり、現在も富士吉田市により運営がされ、登山者の憩いの場となっている。

中ノ茶屋の先には、河原堀という空沢があり、ここを渡って登山道を200メートル進んでから道を外れて少し東に入ったところには、後に脱衣婆ノ小堂とも称された「姥子」というお堂があったことが知られている。脱衣婆とは、三途の川で死者の衣服を奪うという奪衣婆のことであることから、当地が、この世とあの世の境界とみなされていたのであろう。

馬返

江戸時代には、4軒の茶屋があった。ここから上は、馬に乗ってきたものも下馬して徒歩で登らなければならない俗界と聖界の境界とされた。富士講を代表する山吉講により文政9年（1826）に建立された石鳥居はその象徴であり、景観上もそれまで草原地帯であったところが森林地帯へと大きく変貌する地であった。なお、現在は、植林が進んだため、草原は数少なくなっているが、馬返の手前にある大石茶屋のレンゲツツジとフジザクラの群落にその名残をみることができる。

一合目

室町時代に造立された大日如来坐像を祀る鈴原大日堂（鈴原神社）がある。その建立年代は、天保9年（1838）頃であり、富士山中では数少なくなった江戸時代の建造物である。明治の廃仏毀釈以降、この大日

如来坐像は麓の家に下ろされているが、今も毎年1日だけ、鈴原神社まで担ぎ上げられ、神事が執り行われている。

二合目

御室浅間神社（おむろせんげんじんじゃ）が鎮座するが、慶長17年（1612）に建立された本殿は、里宮である富士河口湖町の御室浅間神社に昭和49年（1974）に移築されている。本社は、北口本宮冨士浅間神社を下（しも）の浅間というのに対し、上（かみ）の浅間と称されてきた。記録によれば、12世紀末の神像が祀られていたとされるだけでなく、隣接してあった行者堂（ぎょうじゃどう）に祀られていた役行者像（えんのぎょうじゃぞう）もやはり13世紀前半まで遡るとされ、水場も近くにあることから、この一帯が吉田口登山道における古くからの信仰拠点であったと考えられる。

三合目

2軒の茶屋が江戸時代からあり、登山者はここで昼食をとることが多かったことから、中食堂（ちゅうじきどう）ともいった。2軒の茶屋には、それぞれ社（やしろ）があり、1つは弁財天を祀り、1つは道了・秋葉・飯綱を祀り、いずれも江戸時代の造立である。後者については、三社宮といい、隣接する茶屋「はちみつ屋」と共に、現在も当地に残されている。

なお、この辺りから眺望がよくなることもあり、三合目～五合目の茶屋の谷側には、縁台状の腰かけが設けられ、登山者はその眺望を楽しんだという。

四合目

　三合目と同じく社があり、やはり江戸時代に造立された大黒天像が祀られており、小屋の名前も大黒小屋という。夏の初めには厨子に入ったこの大黒天像を背負子(しょいこ)に背負って登り、秋には家に持ち帰って床の間に安置した。このように社に安置する神仏を夏の間のみ上に背負い上げるのは、他の小屋でも同様であった。

四合五勺

　向かって左手に大きな岩があり、これを御座石といい、富士山の神が宿る大岩として、戦国時代から人々の信仰を集めた。右手の小屋は、浅間神社と山小屋が一緒になったものであり、富士スバルラインが 50 年前に開通する前まで営業していた。

　江戸時代には、二合目より上が女人禁制(にょにんきんせい)とされていたが、60 年に 1 度訪れる庚申の年に富士山は湧出した

五合目

　この辺りを中宮(ちゅうぐう)といって大日社(だいにちしゃ)・浅間社(せんげんしゃ)・稲荷社(いなりしゃ)の三社があり、今も稲荷社が「富士守稲荷(ふじもりいなり)」として祀られている。中宮周辺を天地(てんち)の境(さかい)ともいい、これから上の石山(いしやま)（焼山(やけやま)）といわれる砂礫地帯とここまで続いた木山(きやま)といわれる森林地帯との境になっている。こうした山の境界であった中宮は、富士山頂の遥拝地でもあり、登頂のできない者がここで山頂を拝したのだという。また、ここより上は、富士山の神仏の住まう聖域であり、古くはこれより上に小屋を建てることは許されなかったといい、18 世紀前半までは、18

軒の小屋がこの辺りに林立していた。長らく謎であったその場所も、平成 22 年（2010）に行われた山梨県埋蔵文化財センターによる発掘調査により、現在の登山道の西側に残る旧道を中心にして両側に連なる雛段状の地形が、その跡地である可能性が高いことが明らかとなっている。

五合五勺

この辺りを経ヶ岳といい、日蓮上人が修行をし、経典を埋納したとの伝承がある。また、姥ヶ懐（うばがふところ）という岩穴もあり、日蓮上人はここで風雨を避けたという。大正 13 年（1924）には、12 世紀に埋納されたとみられる経典が発見されている。

六合目～七合目

これより下の小屋は木造であり、屋根は板屋根で石置きとするが、これより上の小屋は、内部には木を使うが、外壁も屋根も大きな石で覆い、出入口があいているだけの小屋であったことから石室（いしむろ）と称された。なお、六合目から七合目の岩場を鎌岩（かまいわ）といい、不動明王の梵字であるカンマンの字に似ることから名付けられたともいうが、実際にこの辺りの小屋の多くに不動明王像が祀られている。

七合二～三勺（しゃく）

この辺りを駒ヶ岳（こまがたけ）といい、聖徳太子が馬に乗って降り立ったという伝説があり、七合二勺には太子館という小屋があり、聖徳太子を祀っている。七合三勺の小屋は蓬莱館（ほうらいかん）というが、この付近に聖徳太子を祀る太子堂があったとされ、堂内に祀られていた江戸時代の造立である銅造の聖徳太子騎馬像が、太子堂の所有者であった富士吉田市内の浄土真宗寺院「如来寺（にょらいじ）」に安置されている。そして、平成 21 年（2009）には、明治の廃仏毀釈以来となる百数十余年ぶりに、如来寺と有志の檀家により蓬莱館まで太子像が運び上げられ、その脇の平地で法要がおこなわれた。そして、今も毎年、当地での法要が続けられている。

七合五勺

烏帽子岩（えぼしいわ）という大岩があり、富士講の中興の祖である食行身禄が、31日間の断食修行の末に入定（にゅうじょう）した地でもある。この31日間に身禄が語り伝えた内容を書き留めたのが、後に上吉田の御師となる田辺十郎右衛門であり、共に付き添ったのが息子の中雁丸豊宗であった。そして、2人はその教えを、身禄の活動拠点であった江戸を中心に教え広め、江戸八百八町に八百八講の礎を築いていくことになる。

後に田辺家は、上吉田にある自宅の敷地内へ富士講と協力して身禄を祀るお堂を建立し、そこで身禄の行衣や直筆文書などの遺物を大切に守り伝えたことから、江戸時代には、富士講は必ず参拝へ訪れたという。そして、今もそのお堂は、身禄堂として大切に守り伝えられている。

また、烏帽子岩にも同じく身禄を祀るお堂が建立されており、現在も富士講の聖地として、江戸時代と変わることなく多くの富士講が参拝に訪れている。

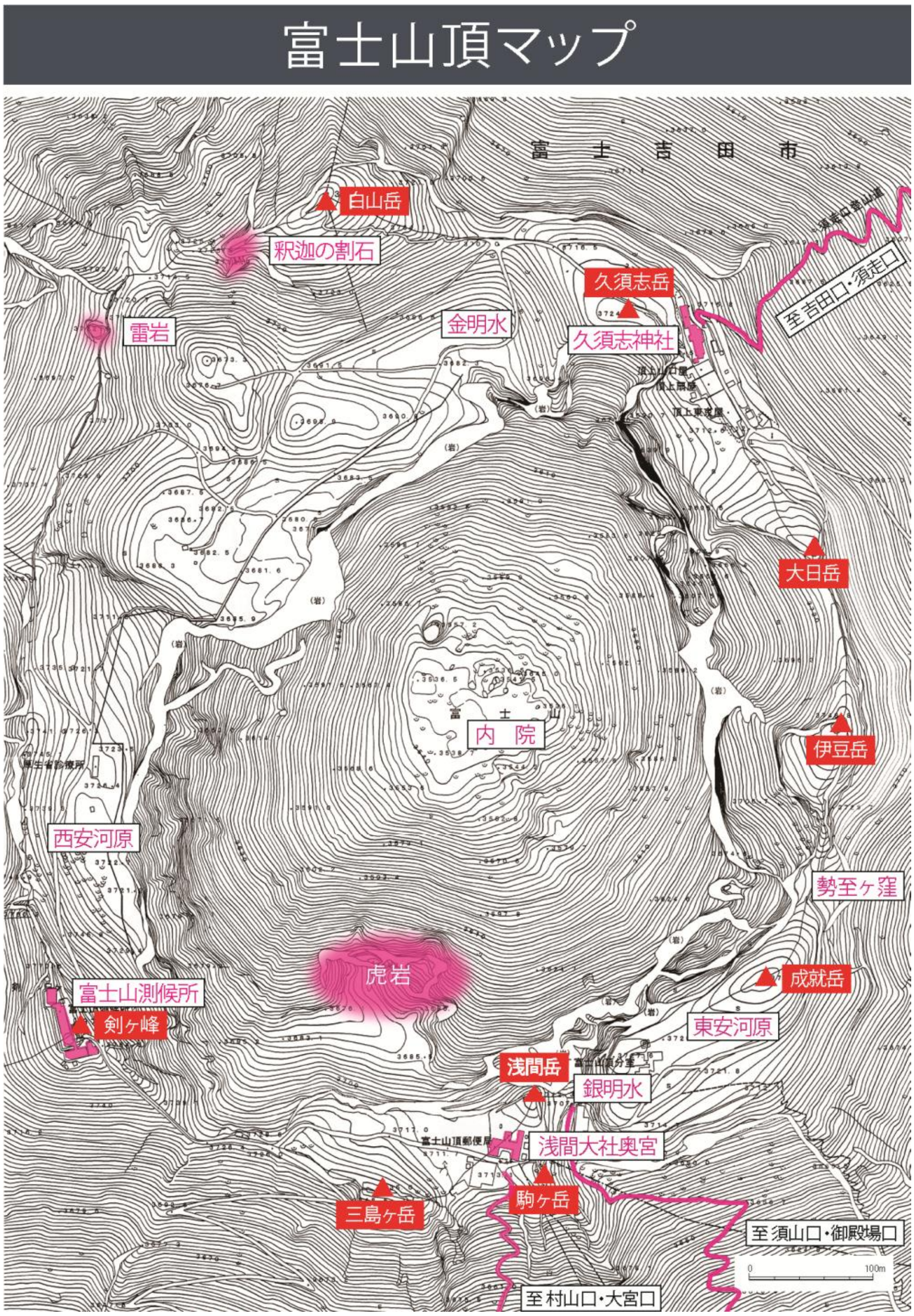
八合目

ここで、吉田口登山道と須走（すばしり）口登山道が合流することから大行合（おおゆきあい）ともよばれる。上吉田を早朝に出立するとこの八合目に夕方ころには着くことができた。ここから上は、現在の静岡県富士宮市に鎮座する富士山本宮浅間大社の境内地となるため、山頂を除いてここより上に小屋を建てることは許されなかったことから、八合目に多くの小屋が林立したことが知られている。その後、明治40年（1907）にこれらの小屋が一軒に集約されてできたのが、今の富士山ホテルである。

現在では、六合目から八合目の小屋を真夜中に出発して、山頂で御来光（日の出）を拝むことが多いが、江戸時代までは、暗闇の中で行動する危険を冒さず、五合目〜九合目で御来光を拝む者も多かった。なお、九合目には、日ノ御子石（ひのみこいし）という白色の大円石があったといい、この前で御来光を拝むと阿弥陀三尊の影が映るとされ、長く「御来迎（ごらいごう）」として信心されてきた。

山頂

現在、吉田口の山頂は久須志岳と称されるが、これは廃仏毀釈以降の名称であり、江戸時代には薬師ヶ岳といい、薬師如来を安置する薬師堂があった。山頂に八つある峰は、仏が座る蓮の花の八つの花弁に見立てられ、各峰に八尊の仏が宿るとされており、薬師ヶ岳もその一つであった。そして、この八尊の仏を参拝するために八つの峰を巡ったのが、今に続くオハチ巡りの由来である。ただ、現在では、廃仏毀釈により仏が麓へ下ろされたことや、噴火口の形がすり鉢に似ていることもあいまって、「お鉢めぐり」とされることが多い。



富士山頂マップ　※富士吉田市歴史民俗博物館 2013『冨嶽人物百景』より

参考文献

富士吉田市史編さん室 1989『上吉田の民俗』

奥脇和男 1997『富士吉田市歴史民俗博物館企画展図録　富士山明細図』

富士吉田市史編さん室 1997『富士吉田市史』史料編 5

奥脇和男 1999『富士吉田市歴史民俗博物館企画展図録　絵葉書にみる富士登山』

串田優子・伊藤裕久 2004「鈴原社の建築構成とその変容について－富士山吉田口旧登山道における歴史的環境の形成と空間構成に関する研究（二）－」『日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道)』

高橋晶子 2008『富士吉田市歴史民俗博物館企画展図録　富士の神仏』

高橋晶子 2007「金鳥居－倒壊と再建の歴史（前)」『富士吉田市歴史民俗博物館だより』29

高橋晶子 2009「富士山七合目如来寺太子堂の由来－寛政五年の書付から－」『富士吉田市歴史民俗博物館だより』33

篠原武 2010「身禄堂の由来と変遷（前）－田辺家の御神前から山元講の身禄堂へ－」『富士吉田市歴史民俗博物館だより』35

山梨県教育庁学術文化財課 2012『富士山　山梨県富士山総合学術調査研究報告書－資料編‐』

山梨県埋蔵文化財センター2012『山梨県山岳信仰遺跡詳細分布調査報告書－富士山信仰遺跡に関わる調査報告－』

篠原武 2013「吉田口登山道のいまむかし‐明治から大正、絵葉書で見る近代富士登山の変貌‐」『レンズが撮らえた幕末明治の富士山』山川出版社

富士吉田市歴史民俗博物館 2013『冨嶽人物百景』

資料３

安全登山のための取組

富士登山者に知って欲しいこと、守って欲しいこと

環境省関東地方環境事務所箱根自然環境事務所
静岡県文化・観光部文化局富士山世界遺産課

沼津自然保護官事務所
橋本　和加子

富士五湖自然保護官事務所
小西　美緒

アクティブレンジャー(AR）の仕事　～富士山～

- ●登山道巡視
- ●直轄施設(トイレ、歩道など）開始・終了作業
- ●利用者指導
- ●登山者カウンター管理
- ●清掃活動

2

目次

＜知って欲しいこと＞

- ✓事前準備の重要性
- ✓登山基本情報
- ✓登山のコツ・起きうる問題・対処法
- ✓＋αのコツ①＜混雑を避けるコツ＞
- ✓＋αのコツ②＜より楽しむ為のコツ＞

＜守って欲しいこと＞

- ✓ルール
- ✓マナー

標高
2位の北岳より
約600mも高い

酸素
地上の60～70%

気温
夏の最低気温
(平均) 2.6℃

雪
真夏でも雪が
降ることも！

↓

思っている以上に　**過酷**　になり得る！！

5

山梨580
た 51-35

事前準備の重要性

富士登山者の特徴

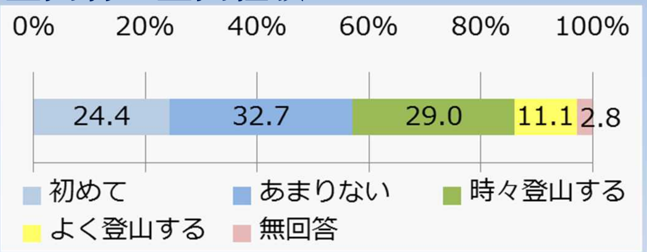
- ●登山初心者が約6割
- ●30代以下が約7割

経験・知識が少ない人が多い

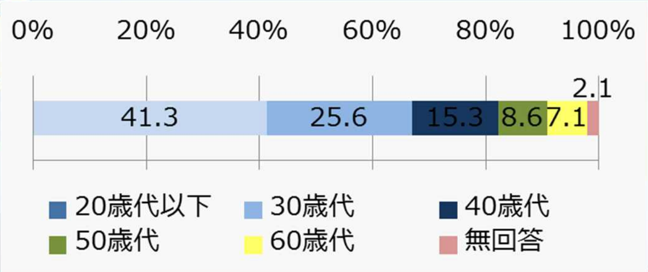
若さの勢いで登ってしまう人が多い

イベント的に登る人が多い

登山者の登山経験



登山者の年齢



事前準備が重要！！！！

富士登山の　**成功**　がかかっている！

Q どんな事前準備･情報収集が必要？

- ✓ **体力強化　　→時間がかかる**
- ✓ 装備
- ✓ アクセス・ルート
- ✓ 天気
- ✓ 登山計画書（コンパス）

9

体力強化って？

- ✓ 日々の積み重ね！→日常生活を有効活用
- ✓ 下半身の強化
  →スクワット、階段昇降、ハイキング
- ✓ 持久力の強化　→ジョギング、ハイキング
- ✓ できれば体幹も！
- ✓ 他の山に複数回登って予行練習
  →　自分の特徴を知ろう！

8時間歩き続けた
ことありますか？

登りと下り
どっちが得意？

平均タイムで
歩ける？？

10

富士登山オフィシャルサイト

富士登山　検索

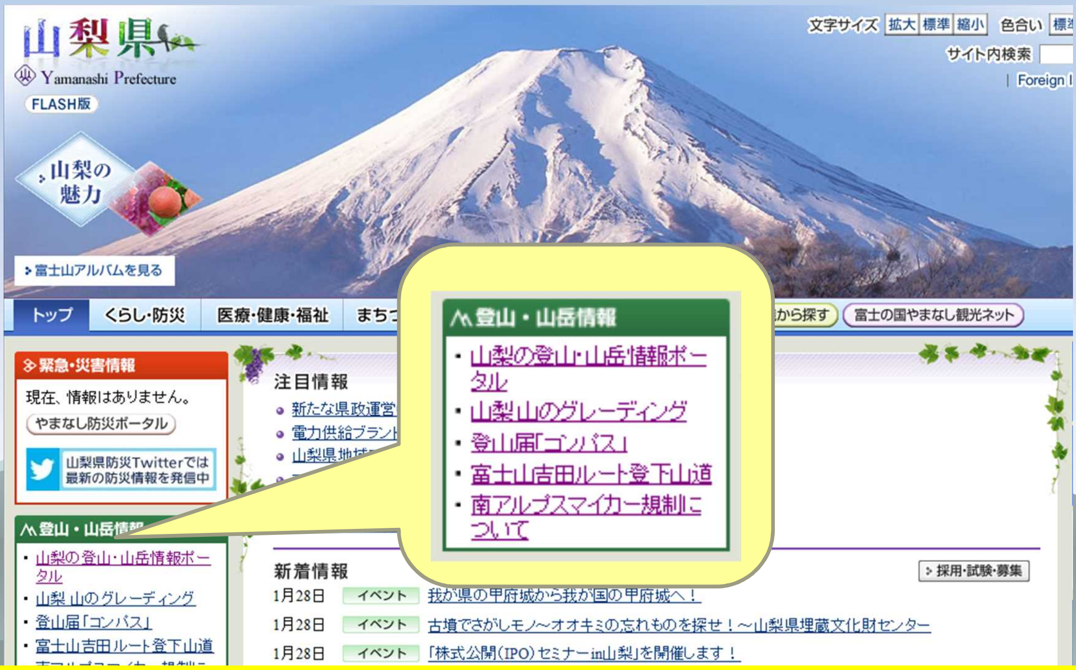
環境省・山梨県・静岡県「富士登山オフィシャルサイト」
http://www.fujisan-climb.jp/index.html

●現場レンジャーの生の声「富士山日記」
●天気情報・登山指数

11

山梨県サイト

山梨 山岳 ポータル　検索



山梨県公式「山梨の登山・山岳情報ポータル」
http://www.pref.yamanashi.jp/kankou-sgn/tozan_sangakujouhou.html

●山梨県内のその他の山岳情報も
●山のグレーディング情報も

12

静岡県サイト

富士山　とことん

検索

静岡県公式サイト「世界遺産富士山とことんガイド」
http://www.fujisan223.com/

- ●世界遺産としての富士山情報が充実
- ●周辺観光情報、モデルコースも

13

登山基本情報

4つの登山道

14

富士山登山道のルート色分け図
剣ヶ峰
3776m
お鉢巡り
浅間大社奥宮
白山岳
3756m
宝永山
2693m
宝永第一火口
御中道
次郎坊
小富士
1905m
富士宮口五合目
御殿場口新五合目
須走口五合目
富士スバルライン五合目
至吉田口
至河口湖
○歩道名・色分け
（富士山では主要登山道に色分けを定めております。）
富士宮ルート Fujinomiya Trail
御殿場ルート Gotemba Trail
須走ルート Subashiri Trail
吉田ルート Yoshida Trail

吉田口

須走口

御殿場口

富士宮口

Q 4つのルートの違いは？？

	吉田ルート	須走ルート	御殿場ルート	富士宮ルート
登山口の標高	2,300m	2,000m	1,450m	2,400m
所要時間	登り：約7時間 下り：約4時間	登り：約7時間 下り：約3時間半	登り：約8時間 下り：約4時間	登り：約5時間 下り：約3時間
登山者数 (2015年)	136,587人	24,005人	15,713人	57,912人
ルートの特徴	●山小屋が多い ●救護所がある ●アクセスが良い ●混雑している	●登りに樹林帯、下りに 砂走りと変化がある ●途中から吉田ルートと 合流するため混雑する	●スタート地点の標高が低い ●距離が長い ●山小屋が少ない ●休日でも混雑しない	●最短ルート ●2番目に登山者が多い ●アクセスが良い
マイカー規制	**あり** 期間中は山梨県立富士北麓駐車場からシャトルバス	**あり** 期間中は須走多目的広場臨時駐車場からシャトルバス	**なし**	**あり** 期間中は水ヶ塚公園駐車場からシャトルバス
登山道からの御来光	五合目以上で見える	樹林帯を抜けるとどこからでも見える	ほぼどこからでも見える	場所によって富士山の稜線からあがるように見える

17

施設を活用してより安全·快適に！！

インフォメーションセンター
- 登山道の情報
- マップの配布
- 天候
- アクセス情報
- 山小屋情報

トイレ
- 公衆トイレ
- 山小屋のトイレ
- チップが必要
- 全てバイオトイレ
- トイレ毎に利用方法が異なる

救護所
- 医師・看護師常駐
- 開設期間・時間が異なる

山小屋
- 宿泊
- 休憩
- 軽食
- 食糧・装備品販売
- 登山道の情報

	吉田ルート	須走ルート	御殿場ルート	富士宮ルート
インフォメーションセンター	●富士山五合目総合管理センター ●安全指導センター（六合目）	●須走口五合目観光案内所	●御殿場口新五合目臨時観光案内所	●富士山総合指導センター（五合目）
公衆トイレ	五合目、六合目 七合目（下山道）	五合目	新五合目	五合目 五合目レストハウス
救護所 (H27開設期間)	五合目(7/1-9/15) 七合目(7/18-8/22) 八合目(7/17-8/24)	なし	なし	富士山衛生センター（八合目）
山小屋	16	13	5	8

特徴を知って自分の体力・技術・目的にあったルート選びを！

登山基本情報

天候

19

Q 富士山の天候は？

クイズ1
H27年夏山期間中に最低気温が氷点下になった日は何日間？

①なし　②7日間　③14日間

クイズ2　H27年夏山期間中の最低気温は？

①－1.5℃　②－3.5℃　③－5.8℃

クイズ3　富士宮（標高125m）が28℃の時、富士山頂は？

①約15℃　②約10℃　③約6℃

クイズ4　その時、山頂は風速が15m。体感温度は何度？

①約10℃　②約0℃　③約－9℃

20

登山基本情報

装備

登山装備は？

【靴】 登山靴、トレッキングシューズ →ハイカット	【水】（1～2L） 水分補給用など →水とスポーツドリンク
【雨具】 セパレートタイプのもの →防水性・透湿性のあるもの	【行動食】 手軽に食べられるもの →エナジーバー、飴、チョコ、 梅干し、ナッツ
【服装】 防寒着 →フリース、ダウン、手袋 帽子、ネックウォーマー	【ゴミ袋】 ゴミ持ち帰り用 【お金】 小銭、現金
【肌着等】 速乾性のもの	【地図など】 登山地図、コンパスなど
【日焼け対策】 帽子（ストラップ） サングラス、日焼け止め	【その他】 携帯電話、医薬品、 健康保険証、タオル、 防水バッグ、耳栓
【ライト】 ヘッドランプ（予備電池）	【安全対策】 ヘルメット、ゴーグル マスク

23

こんな事故も・・・・

H26.8.10発生

富士山で落石 女性重傷

9合目付近 20ﾁｾﾝ大、頭を直撃

9日午前3時15分ごろ、富士山9合目付近の山道で、斜面から落ちてきた20ﾁｾﾝほどの大きさの石が登山中の仙台市泉区、会社員川崎加奈さん(28)の頭を直撃した。川崎さんは甲府市内の病院に運ばれたが、頭の骨を折る重傷を負った。ほかの登山者にけがはなかった。

富士吉田署や県などによると、事故現場は吉田、須走両ルート共通の下山道近く。事故を目撃した人の話から、縦横約20ﾁｾﾝ、厚さ約3～4ﾁｾﾝの石が斜面側から数個落ち、川崎さんにぶつかったとみられる。近くの8合目救護所にいた医師が処置した後、5合目まで搬送され、待機していた富士五湖消防本部の救急隊が病院に搬送した。

川崎さんは約30人の登山ツアーに参加し、8日午後に5合目から吉田口登山道に入った。午後11時すぎ、休憩していた7合目の山小屋を出て山頂を目指した。登山道の混雑を避けて登るため、ガイドの判断で本8合目付近から下山道に移動している際、下山道の手前で石が落ちてきた。

事故現場は、山頂の山小屋に資材を運ぶブルドーザーが通行する通称「ブル道」の一つ。目の前を通る下山道もブル道だが、事実上、吉田、須走両ルートの下山道として使われている。下山道を登るため、登山道から下山道に移る登山者は少なくないという。

県と同署が9日午後、現場付近など登山道や下山道を確認したところ、ほかに落石の危険がありそうな箇所は確認されなかった。

〈小沢甲吾、樋川義樹〉

H27.9.13発生

頭に落石 女性重傷

富士山 ヘルメット未着用

13日午前6時ごろ、富士山9合目付近の下山道で、斜面から落ちたとみられる石が、下山していた千葉県我孫子市我孫子4丁目、無職矢島紀子さん(47)の頭にぶつかった。矢島さんは病院に運ばれたが、頭の骨を折るなどの重傷を負った。ほかの登山者にけがはなかった。

富士吉田署によると、落石を目撃した人はおらず、石の大きさは不明。矢島さんが参加していたツアーの添乗員が119番し、矢島さんは山小屋に資材を運ぶブルドーザーで5合目まで搬送された。

矢島さんは約40人の登山ツアーに参加し、12日に5合目から吉田口登山道に入り、山小屋に宿泊して山頂でご来光を見た後に下山していた。ヘルメットは着用していなかった。

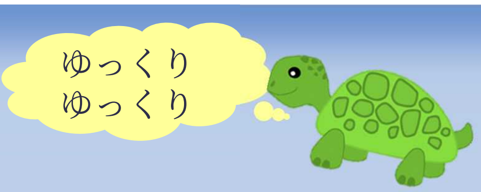
下山道では昨年8月、落石で女性が頭の骨を折る事故があり、山梨県は今年6月、静岡県と須走口の山小屋組合の3者で管理に関する契約を結び、定期巡回などを通じ落下する恐れがある石の撤去をしていた。

〈渡辺浩人〉

ヘルメットがあれば、防げた可能性も、、、

登山のコツ・起きうる問題と対処法

富士登山の基本的なコツ



1. 睡眠　・・・睡眠不足でスタートは×
2. 高度順応　・・・5合目で1時間ほどゆっくり
3. とにかくゆっくり歩く　・・・ツアーのペースを参考に
4. 水分をこまめに摂る　・・・一気に飲まない。休憩毎に
5. あまり食べ過ぎない　・・・こまめにエネルギー補給
6. 歩幅小さく、靴底全体で着地　・・・筋肉の負担を最小限に
7. 長すぎる休憩はしない　・・・体が冷えないように
8. 着込み過ぎない　・・・汗をかき過ぎないように！
9. 下山が重要！！　・・・登頂でまだ道のり半分！

27

富士山で起こりうる問題･対処方法

①高山病

【症状】
- 頭痛
- 吐気・嘔吐
- 疲労・倦怠感
- めまい・ふらつき

【予防方法】
- こまめな水分補給
- ゆっくり登る
- 呼吸を意識
- アルコール・タバコを避ける

【対処方法】
- ペースを遅くする
- 水分を摂る
- 深い呼吸を
- 高度を下げる
- 寝てはダメ！

②道迷い・はぐれ

【起きやすいポイント】
- 須走・吉田下山道分岐点
- 御殿場登下山道分岐

【予防方法】
- 地図携帯する
- グループの各人がきちんとルートを把握
- 常に現在地を確認
- 待ち合わせ場所を決めておく
- 携帯の充電

【対処方法】
- 仲間で連絡を取り合う
  →位置Noを確認
- 緊急連絡先・110に連絡
- 周囲の人にはぐれた人の特徴などを伝える

28

道迷いが起きやすいポイント＜下山道 吉田・須走分岐＞

吉田・須走分岐点

位置NO

富士山で起こりうる問題･対処方法

③ケガ

【起きやすいポイント】
- 下山が圧倒的に多い

【症状】
- 捻挫
- 膝の痛み
- 擦り傷

【予防方法】
- 体力アップ
- ウォーキングポールの活用
- バランスを意識
- サポーター・テーピングの活用

【対処方法】
- ファーストエイドキット持参
- 緊急連絡先・119に連絡

④低体温症

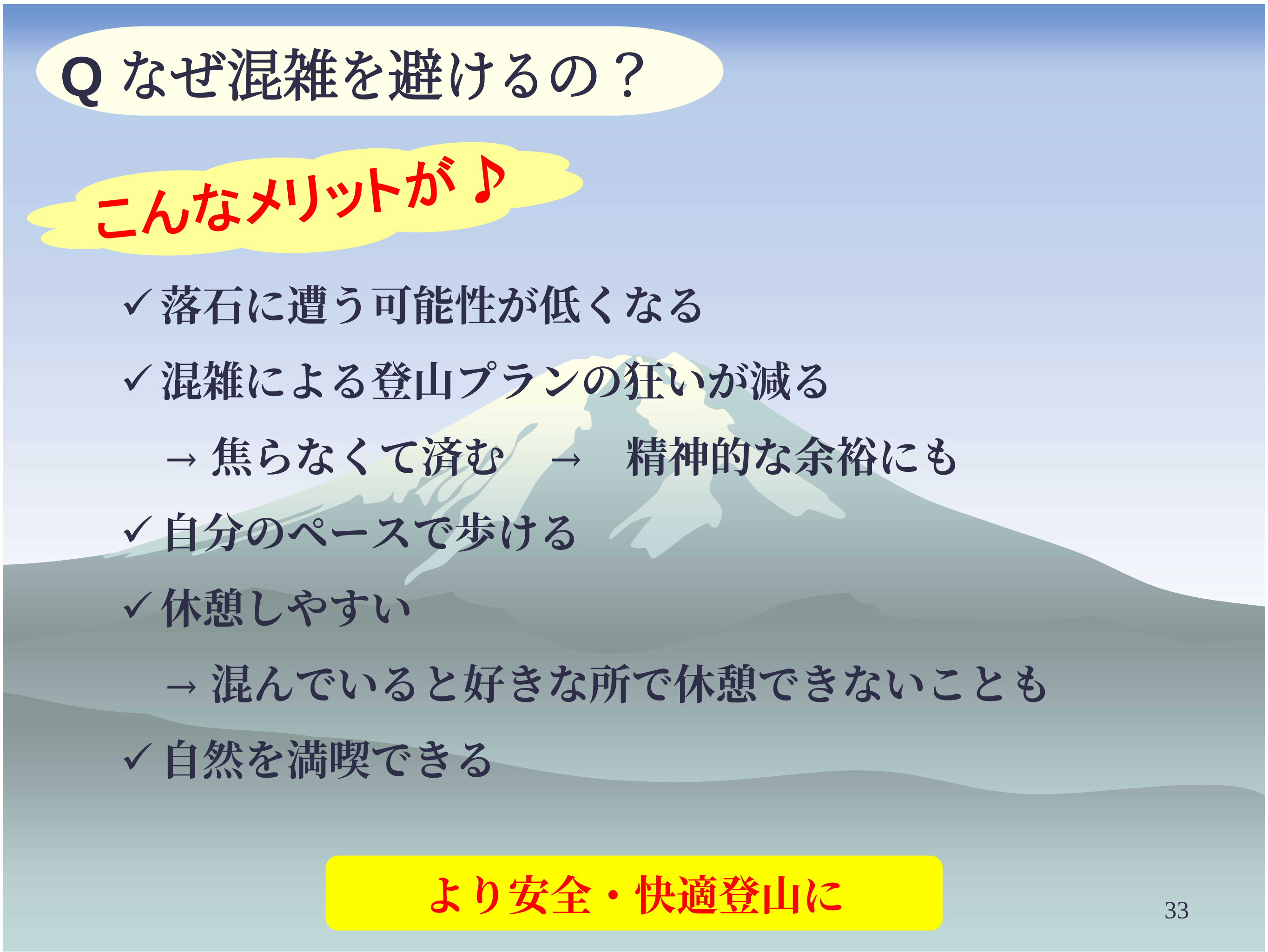
【症状】
- 寒気
- 体の震え
- 意識・言語障害

【予防方法】
- 防寒対策をきっちり
  →特に濡れ、風対策
- 体内からも温める
- エネルギーをしっかり摂る

【対処方法】
- 風・雨を避けられる場所へ避難
- 濡れたものを乾いたものに着替える
- 脇・ふとももつけねなど血管の太い場所を温める

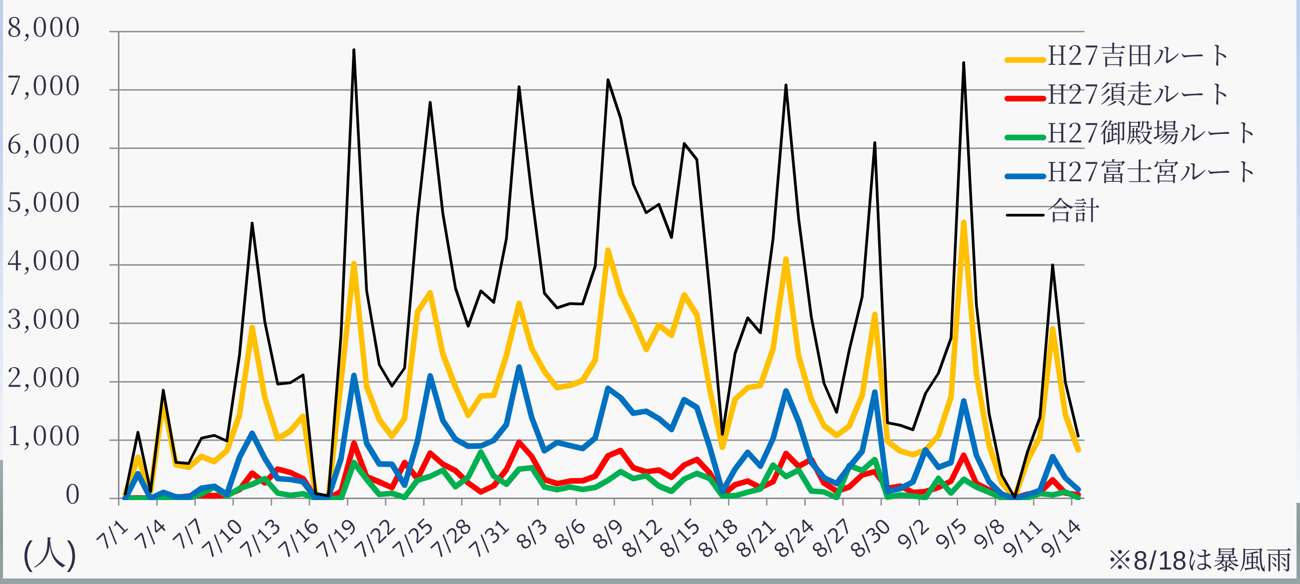
＋αのコツ①＜混雑を避けるコツ＞

31


Q なぜ混雑を避けるの？
こんなメリットが♪
✓落石に遭う可能性が低くなる
✓混雑による登山プランの狂いが減る
→ 焦らなくて済む　→　精神的な余裕にも
✓自分のペースで歩ける
✓休憩しやすい
→ 混んでいると好きな所で休憩できないことも
✓自然を満喫できる
より安全・快適登山に
33

ポイントはずらしにあり
34

時期をずらす！！



環境省　H27年富士山八合目登山者数

例年の梅雨明け（甲信地方）

H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
7月17日頃	7月 9日頃	7月25日頃	7月6日頃	7月21日頃	7月10日頃

35

時期をずらす！！

夏山期間中の登山者数の多い日　上位5位

	平成27年		平成26年	
	登山者数（人）	日　付	登山者数（人）	日　付
1	7,687	7月19日（日）	8,803	8月2日（土）
2	7,466	9月5日（土）	8,255	7月26日（土）
3	7,175	8月8日（土）	7,720	8月23日（土）
4	7,084	8月22日（土）	7,077	7月20日（日）
5	7,053	8月1日（土）	6,967	8月13日（水）

海の日～お盆がピーク

お盆以降減少傾向に

36

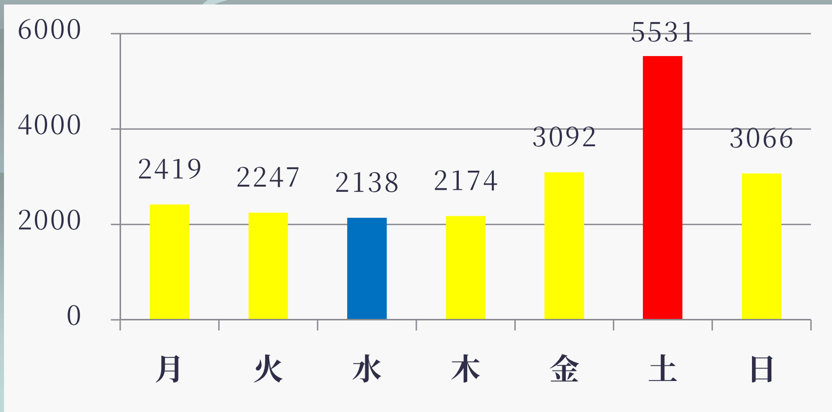
曜日をずらす！！

土日祝日は平日の2倍！

平日と休日の登山者比

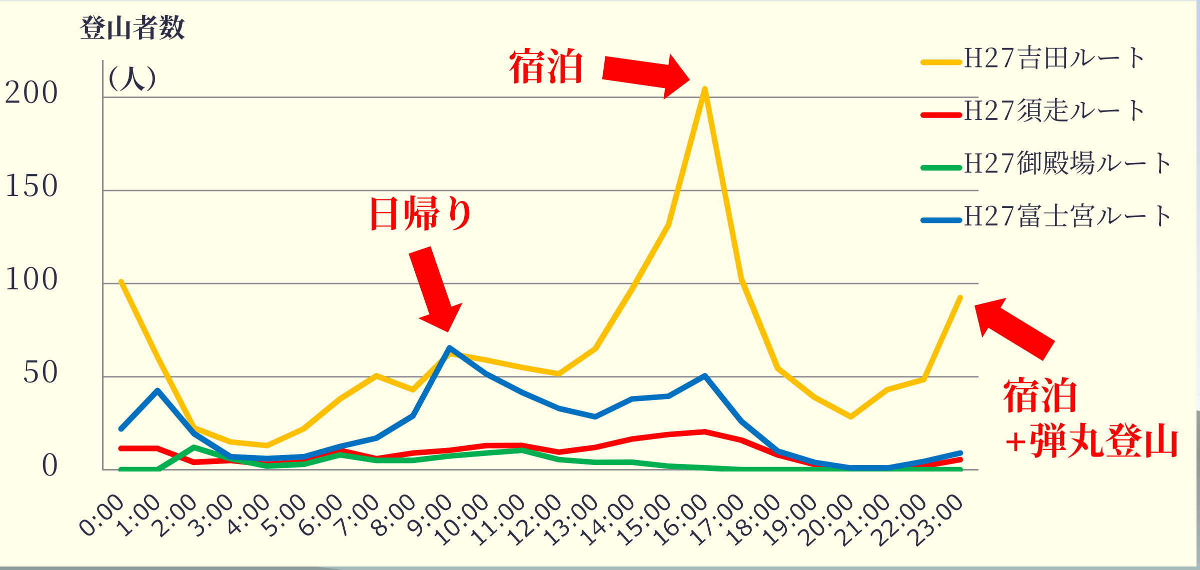
	平成27年	
	平日(人)	土日祝日(人) (平日比)
合計	2,395	4,664(195%)
吉田ルート	1,419	2,669(188%)
須走ルート	240	491(205%)
御殿場ルート	160	314(196%)
富士宮ルート	576	1,190(206%)

曜日ごとの登山者数平均



時間をずらす！！

各登山道8合目を通過する登山者数（中央値）



時間をずらす！！

吉田口6合目（H26年7月12日）

11：42AM

1時間で!!

12：59PM

（1泊2日の場合）お昼より前の出発がおすすめ

●山小屋でのんびり休息
●山小屋より少し上まで登って高度順応

39

山頂で御来光を見ないという選択肢も！

山小屋から御来光を

- ✓ ギリギリまで寝ていられる
- ✓ 混雑とは無縁　→　より安全
- ✓ 寒くなったらすぐ山小屋へ逃げ込める
- ✓ 日が登ってから出発するため景色も楽しめる　かつより安全

ARがおすすめするゴールデンプラン?!

- **お盆以降の水曜日の朝10時五合目出発の1泊2日**
- **御来光は山小屋からのんびりと**

40

Q. 山小屋がいっぱいだったら？

- ✓ ツアーならOKな場合も
- ✓ 曜日を変えてみる・・・・・・・・・ 休日→平日
- ✓ ルートを変えてみる
- ✓ 空室状況は随時変わる

（直前ならOKな場合も）

＋αのコツ②＜より楽しむコツ＞

Q.御来光･影富士を見る良いスポットは？

大沢崩れ上

朝の影富士

久須志岳

遮るものなし

伊豆岳
西風が当たらない

剣ヶ峰

日本一高い場所

● 御来光スポット
● 影富士スポット

伊豆岳下

夕方の影富士

各登山道の山小屋からもオススメ！

日本一高い場所からお便りを！

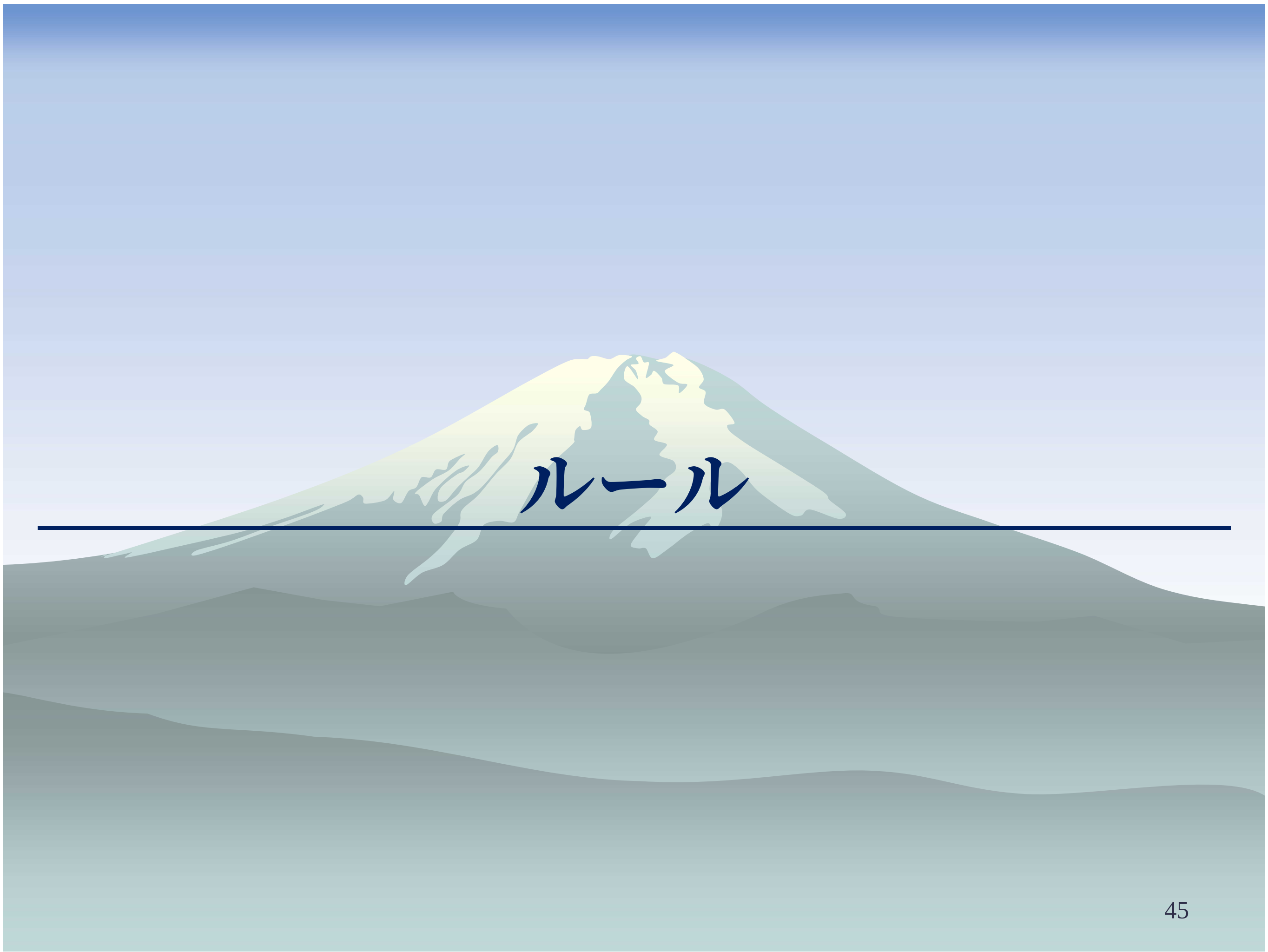
●御殿場口山頂に郵便局　夏期のみ開設
（参考）平成27年7月10日（金）～8月23日（日）
6:00～14：00

登頂証明･ご朱印GET！

●ご朱印　：吉田・須走口山頂　久須志神社
：富士宮口山頂　富士浅間神社
●登頂証明　：郵便局
：山梨県「ノボルノボルフジサン」オンライン
：富士吉田市「富士山登山認定書」(麓からのみ)
：山小屋で発行している所も

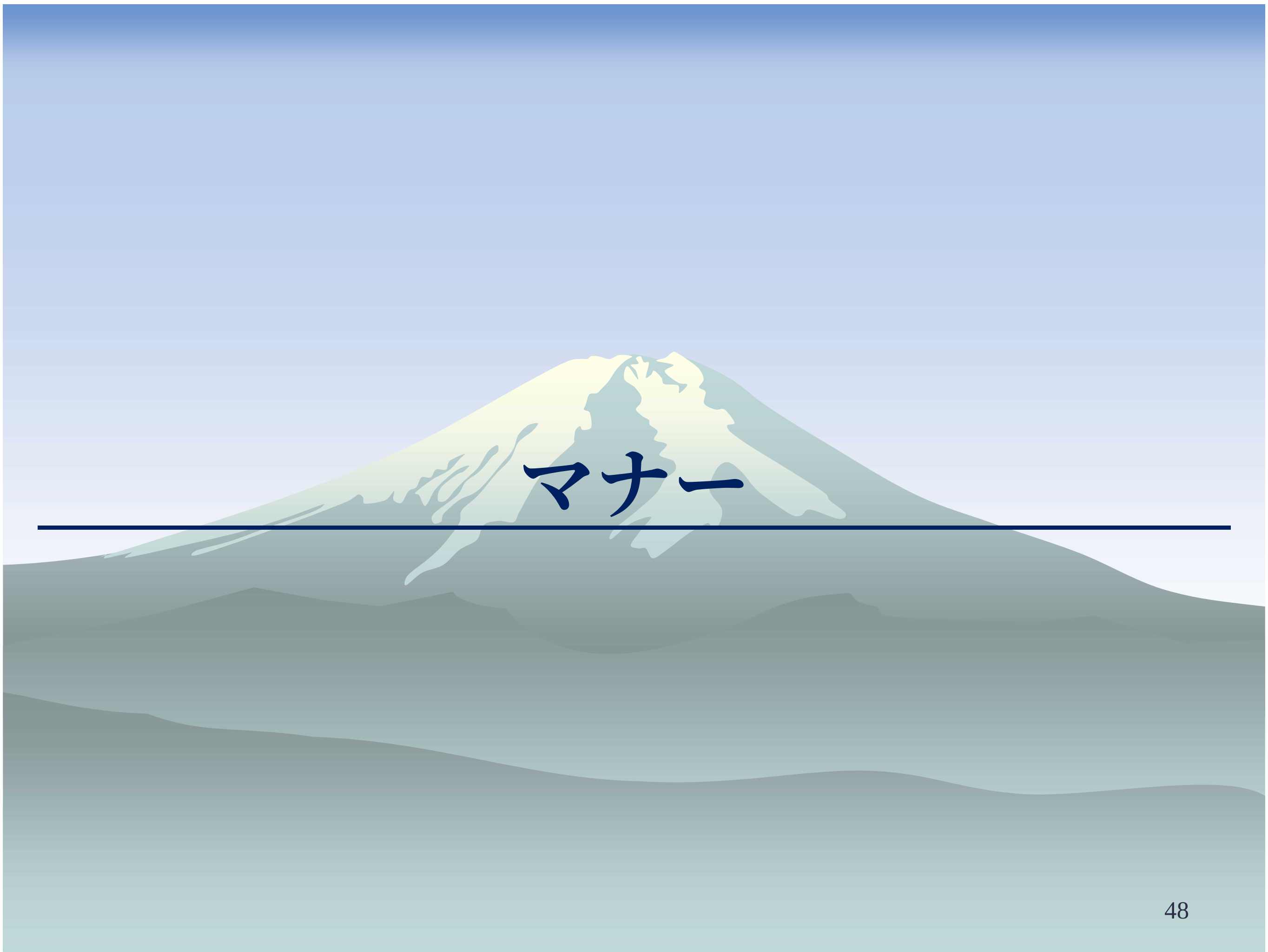
吉田ルート下山時のオススメ

●六合目→六・五合目山小屋経由→泉ヶ滝→スバルライン5合目


ルール
45

富士山五合目以上は富士箱根伊豆国立公園の
特別保護地区
採取禁止！
植物
動物・昆虫
溶岩
禁止行為！
テント設営
たき火
ペット放し飼い
落書き
●登山道外れる

溶岩・植物採取
テント設営
NG行為です!
落書き
石文字
CLA-X
INDONESIA


マナー
48

富士山でのマナー

- ✓ ゴミの持ち帰り
- ✓ 登山道を外れない
  ※落石の危険があり大変危険！
- ✓ 登りが優先
- ✓ **ロープをつかまない**
- ✓ ストックの先にキャップを
- ✓ 夜間の小屋周辺は静かに
- ✓ トイレチップに協力を！

その他注意点

- ✓ **剣ヶ峰直下は立ち入り禁止　落石の危険あり**
- ✓ シーズン最初はお鉢巡りできない・トイレ使えない

49

ゴミ捨て

ロープつかまり

剣ヶ峰直下の立入

トイレチップのご協力

富士山カントリーコード

1. 美しい富士山を後世に引き継ぐ
2. ゴミは絶対捨てずに、すべて持ち帰る
3. ゴミになるようなものを最初から持っていかない
4. 登山道をはずれて歩かない
5. 登頂記念の落書きをしない
6. 車道外へ車両等を乗り入れない
7. 溶岩樹型等の特殊地形を壊さない
8. 駐車場ではアイドリングをしない
9. 動植物を採らない
10. トイレなど公共施設をきれいに使う

51

平成28年夏の開山期間、マイカー規制について

資料４

1　平成28年夏の開山期間の方針

登山口		静岡県側登山道 （富士宮口･須走口･御殿場口）	山梨県側登山道 （吉田口）	山頂周回線歩道 （お鉢めぐり歩道･山頂公衆トイレ）
管理者		静岡県	山梨県	環境省
開山期間	開山	7月10日（日）	7月1日（金）	7月10日（日）
	閉山	9月10日（土）		
考え方	開山	山梨県側よりも雪解けが遅く、安全に山小屋、トイレの準備を完了させ、登山者を受け入れるため、開山日を7月１０日とする。	例年7月1日に開山式を行い、その日から登山を開始する伝統を尊重。	山頂までのブル道の除雪、公衆トイレの供用準備作業、歩道上の標識設置等に、一定の時間を要することから、供用開始日は7月10日とする。
	閉山	富士山体への影響を考慮し、開山日から2ヶ月を超えない範囲で開山期間を設定。	登山者へのわかりやすさ、安全性･利便性を総合的に勘案し決定	両県の閉山日にあわせて決定。

※山梨県側下山道の閉鎖は9月11日（日）

※開山閉山日は、残雪･施設状況等により変更となる可能性があります。

2　平成28年のマイカー規制について

区　分		H28（予定）	H27
静岡県	富士宮口 （富士山スカイライン）	7月9日（土）9時～ 9月11日（日）昼12時　連続65日間	7月10日（金）9時～ 9月10日（木）昼12時　連続63日間
	須走口 （ふじあざみライン）	未定	7月10日（金）昼12時～ 7月12日（日）昼12時 7月17日（金）昼12時～ 8月23日（日）昼12時 8月28日（金）昼12時～ 8月30日（日）昼12時 9月　4日（金）昼12時～ 9月　6日（日）昼12時 計　47日間
山梨県	吉田口 （富士スバルライン）	7月10日（日）17時～ 8月31日（水）17時 連続53日間の予定	7月10日（金）17時～ 8月31日（月）17時 連続53日間

「富士山保全協力金」の平成28年夏の実施について

1　概　要

区　分	静岡県	山梨県
目　的	富士山の環境保全、登山者の安全対策	
対象者	五合目から山頂を目指す登山者	
金　額	基本：1,000 円	
実施期間	登山道開通期間 7 月 10 日（日）～9 月 10 日（土）	登山道開通期間 7 月 1 日（金）～9 月 10 日（土）
実施方法及び場所	○現地 ・富士宮口、御殿場口、須走口の各五合目 ・水ヶ塚駐車場 ○インターネット支払い等	○現地 ・富士スバルライン五合目 ・吉田口六合目 ・富士北麓駐車場 ○インターネット支払い等
使　途	○富士山五合目以上の新規事業及び事業の拡充の財源に充当 ①富士山の環境保全 ②登山者の安全対策 ③富士山の普遍的価値の情報提供 ○実施経費の財源に充当 ※具体的な事業については、事業選定委員会を設置し、毎年度審議して決定	

2　平成28年夏に向けた両県の取組

（1）　両県での共同ＰＲ

ポスター、統一ロゴなど

（2）　受付体制の見直し

現地における受付期間、受付時間帯、人員の配置の見直しなど

（3）　外国人、団体客等への周知の強化

日本政府観光局（JNTO）や旅行関係団体等への協力依頼、インターネット等による情報提供

資料５

富士山ガイダンス 2016 資料　　　　平成 28 年２月４日

富士山における山岳遭難の発生状況について

静 岡 県 警 察 本 部

１　山岳遭難発生状況

(1) 年間

区分 / 年別	(件) 発生件数	事 故 者 総 数 (人) 総 数	死 亡	行方不明	重 傷	軽 傷	無事救出
年間	62件	67人	1人		8人	17人	41人
前年比	-4	-3	-5	±0	+1	+1	±0

(2) 開山期間中（7/10～9/10）

区分 / 年別	(件) 発生件数	事 故 者 総 数 (人) 総 数	死 亡	行方不明	重 傷	軽 傷	無事救出
開山中	53件	58人			5人	16人	37人
前年比	-1	±0	±0	±0	-2	+3	-1

２　開山期間中における遭難の特徴

(1) 病気による遭難が多い　　全国 6.7%　⇒　富士山 29.0%

高山病がほぼ半数を占めるが、低体温症や他の病気も多い

(2) 若者(29 歳以下)の遭難が多い　　全国 13.4%　⇒　富士山 47.3%

若者の遭難で多い隠れ原因が、弾丸登山　26 年 15 件　⇒　27 年 11 件

(3) 女性遭難者が急増　　26 年 16 人 29.0%　⇒　27 年 28 人 48.3%

(4) 外国人遭難者が急増　　26 年　8 人 14.5%　⇒　27 年 18 人 31.0%

３　登山口別の遭難傾向

ルート別	発生件数	態 様 別 件 数
富士宮ルート	27 件	発病 12 件(7)、転倒 9 件、疲労 5 件、その他 1 件
須 走 ル ー ト	17 件	転倒 7 件、疲労 5 件、発病 2 件、道迷い 2 件、その他 1 件
御殿場ルート	7 件	発病 3 件(1)、転倒 1 件、疲労 1 件、道迷い 1 件、その他 1 件
そ　の　他	2 件	転倒 1 件、滑落 1 件

※　①　その他は、静岡県側の上記３ルート以外での発生

②（）は高山病で内数、五合目の標高が高いルートほど高山病が多い

参考資料

富士山登山者に提供すべき情報

/富士山における適正利用推進協議会

①登山基本情報　※登山ルートや登山口等富士山登山に関する基本的な情報

提供情報の内容	提供する時期		
	準備段階	登山開始前	登山中
登山基本情報			
●登山シーズン ・７月から９月上旬 ※登山ルート、山小屋、安全指導センターや救護所等の施設ごとに毎年、開設期間が異なるため、各管理者の情報を確認のこと。 ※７月の山開き直後は、残雪のために利用できないルートや区間があるため注意。	◎	◎	―
●登山口・登山ルート ・４ルート（ルート名、ルートの色、登山口名は統一） 【吉田ルート】　黄色、富士スバルライン五合目 【富士宮ルート】青色、富士宮口五合目 【御殿場ルート】緑色、御殿場口新五合目 【須走ルート】　赤色、須走口五合目	◎	◎	◎
●各登山ルートの特徴・注意事項 ※別表参照	◎	◎	○
●必要な装備 ・出発前に必ず確認。 ・装備が不備な場合は、五合目で調達可能なものがある。（吉田ルートでは、ほとんどの必要な装備が購入可能） ＜必要な装備＞ ・登山靴またはトレッキングシューズ ・雨具 ・防寒着 ・綿素材ではない肌着 ・ヘッドランプ ・水（約２リットル）、行動食、ゴミ袋、トイレのチップ用小銭、帽子	◎	◎	―
●歩き方・トレーニング ・オーバーペースにならないよう注意。 ・事前のトレーニングや体力づくりが必要。	◎	◎	○

②安全情報　　※富士山登山のリスク、遭難や事故、高山病等の予防・対策のための情報

提供情報の内容	提供する時期		
	準備段階	登山開始前	登山中
安全情報・緊急情報 ●最新気象情報 ・気象情報・予報（天気、気温、風力、気圧、霧、雷、等） ・台風等低気圧の接近情報 ・警報・注意報	○	◎	◎
遭難・事故のリスク情報 ●気温差や天候急変の危険 ・山頂と平地との気温差が大きい。 ・山頂の気温は、真夏でも氷点下になることがある。低体温症の危険があるため防寒・防風対策が必要。特に、ご来光を待つ時間。 ・天候が急変しやすい。 　・強風（強風時の山頂お鉢めぐりは危険） 　・雷、濃霧の発生（落雷の危険、濃霧による道迷いの危険） 　・安全指導センターや山小屋等で登山当日の気象状況を必ず確認。 　・警報発令時には、登らない。速やかに下山。急変時は山小屋等へ避難。	◎	◎	◎
●遭難・事故の危険 ・遭難は、疲労や体力不足、装備不備、悪天候、高山病、持病等が主な原因。 （遭難・事故の発生状況、救護件数を示す。） ・登山初心者は、単独登山は避ける。	◎	◎	―
●落石事故の危険 ・富士山の地質は崩れやすく、落石しやすい。 ・過去には死傷者も出た大落石事故が発生。 ・落石事故誘発防止のため、登山道をはずれて歩かない。登山道の端も歩かない。 ・落石を起こした場合は、周囲へ知らせる。	◎	◎	○
●夜間登山の危険 ・登山道での転倒や落石の危険。ヘッドランプは必須。 ・前日までの睡眠が十分でない「弾丸登山」は疲労によるケガや高山病等健康上問題。弾丸登山は避ける。 ・ヘッドランプを持たない登山者は、下山が日没後になると道迷いの危険。	◎	◎	―

②安全情報（続き）

<table>
<tr><th rowspan="2">提供情報の内容</th><th colspan="3">提供する時期</th></tr>
<tr><th>準備段階</th><th>登山開始前</th><th>登山中</th></tr>
<tr><td>道迷い情報
●道迷いの注意喚起
・分岐点や日没後に注意。
【吉田ルート】
・下山道八合目分岐に注意。（標識でルートの色を良く確認）
・下山道六合目で吉田口登山道との分岐に注意。
【御殿場ルート】
・濃霧により道を見逃す危険。（標柱を追って進む）
【須走ルート】
・下山道八合目分岐に注意。（標識でルートの色を良く確認）
・日没後の樹林帯やブル道への迷いこみに注意。</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>高山病に関する情報
●高山病とは
・急激な高度の変化に順応できずに、血中の酸素濃度は少なくなって発症。
・登山を途中で断念する大きな要因。
●高山病の症状
・疲労感や脱力感、頭痛、めまい、食欲不振等。重症になると吐き気や嘔吐。反応の鈍化。
●予防策
・高度に体を慣らすため、五合目で１時間から２時間程度、ゆっくり過ごす。もしくは、麓から登る。
・一定のペースでゆっくりと登る。
・定期的に短い休憩をとり、体力の消耗を防ぐ。
・こまめに水分を補給。
・腹式呼吸（お腹からしっかり息を吐く）や、意識して深呼吸。（過呼吸にならないように注意）
●発症後の対応策
・症状が重い場合は、無理をせず下山。（高度を下げると症状が回復する）
・暖かくして休む。</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>緊急時の対処方法
●緊急時の救助要請
・体調が悪い場合は救護所を利用（吉田ルート七合目・八合目、富士宮ルート八合目）
・登山出発前に安全指導センター等で救護所の開設期間を確認。
・救助要請は１１０番または１１９番に連絡。安全指導センター等でも可（標柱に連絡先が記載されている）。
・標識の地点番号で位置を連絡。</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td></tr>
</table>

③規制･マナー情報　※登山にあたって知っておくべきルールやマナー情報

提供情報の内容	提供する時期		
	準備段階	登山開始前	登山中
基本的なルールとマナー ●自然公園法による国立公園の指定及び禁止行為 ・五合目以上は、国立公園特別保護地区として下記の行為禁止 ＜禁止行為＞ ・動植物の採取 ・土砂・石の採取（溶岩の持ち出し） ・キャンプ（テント設営)、たき火 ・ペット等動物を放すこと ・オフロード車、オフロードバイク等の乗り入れ ●文化財保護法による特別史跡、名勝、天然記念物等の指定 ・溶岩洞穴、溶岩樹型などは天然記念物 ・富士講登山と関わりの深い神社等は史跡 ●富士山憲章にもとづく「富士山カントリーコード」（10 項目） ・美しい富士山を後生に引き継ぐ、ゴミは絶対捨てずに持ち帰る、等	◎	◎	◎
マイカー規制情報 ●有料道路の規制 ・富士スバルライン（吉田：山梨県道路公社)、富士山スカイライン（富士宮：静岡県)、富士あざみライン（須走：静岡県） ※道路ごとに毎年、規制期間、規制区間等が異なるため各管理者に確認のこと。 ●マイカー規制期間中の駐車場及びシャトルバスの運行 ※道路ごとに毎年異なるため、各管理者、バス運行会社に確認のこと。	◎	◎	－
環境保全の取組情報 ●環境配慮型トイレの利用方法及び協力金 ・環境保全の観点から、し尿を微生物で分解するバイオ式トイレなど自己完結型トイレを整備。 ・処理方法によって利用の方法が異なるため、トイレごとの使用ルールを守る。 ・厳しい自然条件下での維持管理に多額の費用がかかるため、利用には協力金（チップ）が必要。（100 円から 300 円程度。トイレによって異なる。）	◎	◎	◎

④利便情報　※アクセスや山小屋、トイレの情報など、富士山登山を円滑かつ快適にする情報

提供情報の内容	提供する時期		
	準備段階	登山開始前	登山中
アクセス情報 ●登山口への交通アクセス ●駐車場情報 ・マイカー規制期間中の駐車場位置など。 ●交通情報 ・道路渋滞や駐車場待ち状況など。	◎	◎	―
山小屋に関する情報 ●山小屋の位置、連絡先 ●山小屋の開設期間 ・ルートや小屋によって異なるため、個別に確認。 ●利用上の注意事項 ・混雑時は予約なしの場合、利用できない場合がある。 ・クレジットカードやトラベラーズチェックは利用不可。	◎	○	―
案内・問合せ先情報 ●登山情報等の問い合わせ先 ・富士スバルライン五合目、吉田ルート六合目、富士宮口五合目には、登山シーズン中、安全指導センター等（臨時派出所を兼ねる）が開設される。 ・須走口五合目、御殿場口には登山シーズン中、観光案内所が開設される。 ・各道路の通行状況は、各管理者へ問い合わせる。	◎	◎	◎
トイレ情報 ●トイレの場所、混雑状況 【吉田ルート】 ・吉田ルート下山道には、山小屋がないため、七合目の公衆トイレは混雑する。 ・山頂で済ますか、六合目のトイレを利用するなど利用分散。 ●環境配慮型トイレとチップ制 ・厳しい自然条件下での維持管理には多額の費用がかかる。 ・それを補うため、利用には 100 円～300 円程度の協力金をお願いしている。（小銭が必要）	◎	◎	◎
その他利便情報 ●山頂郵便局（開設期間など） ●飲食 ・飲食や水等が購入できる山小屋もあるため、必要以上の水や食料を持つことはない。	◎	◎	―

⑤資源情報　※富士山登山で享受できる魅力に関する情報

提供情報の内容	提供する時期		
	準備段階	登山開始前	登山中
富士山に関する情報 ○標高（登山口や地点ごとの標高） ○成り立ち・地形地質 ○気象特性（突風、濃霧、落雷等） ○歴史文化（信仰や富士登山の歴史等） ○国立公園（国立公園の指定範囲、等） ○文化財指定（特別名勝、史跡、等）	◎	◎	◎
富士山の見どころ情報 ○植生、動植物資源、溶岩洞穴・溶岩樹形 ○ご来光、影富士、眺望 ○山頂付近の見どころ	◎	◎	◎
周辺施設資源情報 ○学習施設に関する情報 ○五合目周辺でのガイドツアーに関する情報 ○温泉 ○周辺の見どころ　等	◎	―	―

富士山登山者に提供すべき情報【ルート別登山基本情報（特徴、施設紹介・注意点）】

ルート	提供情報の内容
【吉田ルート】	＜特徴＞ ・吉田口登山道の起点：北口本宮浅間神社横 （吉田ルートの出発地点：富士スバルライン五合目、標高約 2,300m） ・富士山の北側から山頂を目指すルート。 ・登山道と下山道が別。 ・登山道に山小屋が多いが、下山道には山小屋がない。 ・富士山登山者全体の半数以上が利用する。 ＜施設紹介・注意点＞ ・山梨県営五合目総合管理センター（富士スバルライン五合目）、富士山安全指導センター（六合目）で登山情報を提供。 ・七合目と八合目の救護所は、登山シーズン中、医師が常駐している期間がある。 ・八合目で須走ルートと合流し、登山道が渋滞することがある。 ・下山道は、八合目まで須走ルートと同じ。7 月はじめには残雪のため、下山道を利用できないことがあるため、登山を開始する前に下山道の状況や下山道として利用できる場所等を六合目富士山安全指導センターで確認。 ・下山道八合目の須走ルートとの分岐点に注意。標識を良く確認のこと。 ・八合目の分岐後、下山道には山小屋がない。公衆トイレは、七合目と六合目にあるが、七合目は大変混雑するため、山頂や本八合目の山小屋で済ませるか、六合目安全指導センター横を利用。
【富士宮ルート】	＜特徴＞ ・出発地点：富士宮口五合目（標高：約 2,400m） ・富士山の南側から山頂を目指すルート。 ・４ルート中、最も標高の高い地点から出発。 ・吉田ルートに次いで登山者が多く、富士山登山者全体の約３割が利用。 ・登山道と下山道が同じため、登山道が混雑することがある。 ・五合目を出発するとすぐに傾斜が急になり、岩場が多い。 ＜施設紹介・注意点＞ ・富士山総合指導センター（富士宮口五合目）で登山情報を提供。 ・五合目及び山頂付近に公衆トイレがある。山頂の公衆トイレは、7 月～9 月上旬まで。 ・六合目で宝永火口方面への遊歩道と分岐。宝永遊歩道は、宝永火口を経て御殿場ルートへ至る。 ・全体に傾斜がきつく、岩場が多いため、落石に注意。下山時には、尻餅など転倒事故が多い。 ・登山道と下山道が同じ。登りを優先し、狭い場所では譲り合いを心がける。 ・八合目に富士山衛生センター（救護所）があり、登山シーズンには医師が常駐している期間がある。

ルート	提供情報の内容
【御殿場ルート】	＜特徴＞ ・出発地点：御殿場口新五合目（標高：約 1,450m） ・富士山の南東側から山頂を目指すルート。どこからでもご来光と陰富士が見られる。 ・出発地点の標高が４ルート中最も低い。傾斜は緩いが、４ルート中最も距離が長く、標高差が大きい。 ・山小屋が少ない。 ・４ルート中、最も登山者数が少ないため、救助を求める場合など、周囲に登山者がいないことがある。 ＜施設紹介・注意点＞ ・御殿場口新五合目には、登山シーズン中、臨時観光案内所が開設され、登山情報を提供。 ・七合目まで山小屋がないため、五合目で食料や水などを準備し、トイレを済ませる。 ・七合目から頂上まで、登山道と下山道が同じ。登りを優先し、狭い場所では譲り合いを心がける。 ・ブルドーザーの通る道に迷い込むと危険なため注意。 ・頂上からの下山は、登ってきた道を下る。七合目からは「大砂走り」を下る。 ・午後からは濃霧となりやすく、道をはずしやすいため、ロープや標柱を目印にする。 ・六合目で宝永遊歩道と分岐し富士宮ルートへ至る。
【須走ルート】	＜特徴＞ ・出発地点：須走口五合目（標高：約 2,000m） ・富士山の東側から山頂を目指すルート。どこからでもご来光や陰富士が見られる。 ・４ルート中、最も標高の高い場所まで樹林帯。五合目から七合目近くまで樹林帯の中を歩く。日中、日差しを遮るが、下山時間が遅くなると暗く、道に迷いやすい。 ・下山道の七合目以下は「砂走り」と呼ばれ、一直線に火山砂利の道を下山。 ・富士山特有の濃い霧が出やすい。 ＜施設紹介・注意点＞ ・須走口五合目の観光案内所で登山情報を提供。登山シーズン中は臨時派出所を併設。 ・本八合目まで、一部で下山道と同じ。登りを優先し、狭い場所では譲り合いを心がける。 ・本八合目で吉田ルートと合流。日の出前は、登山道が渋滞することがある。 ・頂上からの下山道は吉田ルートと同じ下山道を利用。7 月はじめには残雪のため、下山道を利用できないことがある。 ・下山道は、八合目で吉田ルートと分岐。吉田ルートへ下らないよう標識に注意。 ・七合目から砂払五合目までは、砂の斜面を一直線に下る「砂走り」。砂に岩が混じっているため転倒や捻挫に注意。 ・途中でブルドーザーの通る道へ間違って入ると道に迷いやすいため注意。 ・砂払五合目からは樹林帯に入り、日没を過ぎると暗くなるため、ヘッドランプは必須。
【お鉢めぐり】	・お鉢めぐりをする場合は、90 分程度かかるため、天候や体調を考慮し、下山の体力を残しておく必要。 ・突風が吹きやすく、濃霧など天候の悪い時は危険。 ・剣ヶ峰へ至る馬の背は、滑りやすいため注意。

■参考資料

箱根伊豆国立公園（富士山地域）に関する情報

・国立公園指定区域（特別保護地区等）、利用規制情報、富士山における環境保全の取組状況、富士山における適正利用協議会に関する情報等

＊掲載サイト：富士箱根伊豆国立公園ホームページ

http://www.env.go.jp/park/fujihakone/intro/index.html

富士山カントリーコード

策定：富士山地域環境保全対策協議会

1　美しい富士山を後世に引き継ぐ	日本一高く美しい富士山を、いつまでも美しく、我が国の自然風景の象徴として後世へ引き継ぎます。
2　ゴミは絶対捨てずに、すべて持ち帰る	富士山の美しい景観の中では少しでもゴミが落ちていると大変目立ちます。また、空気の薄い富士山では清掃も重労働で危険な作業です。ゴミの持ち帰り運動に協力し、自分で持ち込んだゴミはすべて自宅まで持ち帰ります。
3　ゴミになるようなものを最初から持っていかない	近くに見えても頂上まではきつい道のりです。疲れないためにも、無駄な荷物は極力省き、ゴミを出さないようにします。
4　登山道をはずれて歩かない	登山道でない場所を歩くと、崩れやすいばかりか、植生を痛めることにもなります。登山道をはずれて歩かないようにします。
5　登頂記念の落書きをしない	登頂記念の石の落書きは、山頂の景観を著しく壊すことになります。石の落書きはしません。
6　車道外へ車両等を乗り入れない	オフロード車やオフロードバイクの車道外への乗り入れは、植生を痛め、動物の生息を脅かします。車道でない場所へは車、バイクを乗り入れないようにします。
7　溶岩樹型等の特殊地形を壊さない	溶岩樹型などは富士山の歴史を物語る古文書です。特殊な地形について学び、大切にします。
8　駐車場ではアイドリングをしない	アイドリングによる排気ガスはきれいな空気を汚します。駐車場での無駄なアイドリングはしません。
9　動植物を採らない	自然の中で生きる多様な動植物は、すべて富士山の自然の仲間です。富士山の動植物を大切にします。
10 トイレなど公共施設をきれいに使う	トイレをはじめ、公共施設は、一人が汚すと後から使う人達が深いです。一人ひとりが気をつけて、汚さず、壊さず使います。

富士山憲章（平成 10 年 11 月 18 日、山梨県・静岡県制定）

＊掲載サイト例：http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-223/fujisannohi/kensyou.html

「富士山における標識類統合ガイドライン」（平成 22 年３月、富士山標識関係者連絡協議会）

＊掲載サイト：富士箱根伊豆国立公園ＨＰ

http://www.env.go.jp/park/fujihakone/effort/fuji_kyogikai.html

（以下、抜粋）